

目 次

はじめに	2
I 博物館概要	
○設置目的	3
○基本的性格と方針	3
○沿革	4
○施設・設備	5
II 平成2年度 組織・運営	
○組織	7
○予算	8
○事業計画	9
III 平成元年度のあゆみ	
○職員	10
○日誌抄	10
○実施事業	12
○常設展	
1 書画コーナー	13
2 刀剣コーナー	13
3 スタディコーナー	13
○特別展	
1 濃飛の古墳時代	14
2 ふるさとの野鳥	15
3 移ろいゆく年中行事	16
○資料紹介展	
1 硯	17
2 ブナ林	18
○その他の展示	
三尾暁峰とその門下生の作品展	19
○調査研究・資料収集活動	
自然部門	20
人文部門	22
○教育普及活動	23
○図書資料寄贈者芳名一覧	25
○利用状況	28
○博物館関係団体	29
IV 利用案内	30

はじめに

岐阜県博物館は置県百年の記念事業の一環として開館以来本年の5月をもって15年目を迎えることになりました。緑濃き赤松林に囲まれた白亜の殿堂は、県下唯一の総合博物館として内容の充実を重ね、入館者も今年中に130万人を超えることとなります。これも生涯学習機関の一つとしての当博物館に対する皆様のご理解と、資料展示・調査研究・教育普及などの諸活動についてのご協力とご指導の賜物と心から感謝申し上げます。

平成元年度には3つの特別展のほか各種の教育普及に関する35の催しものなどを実施いたしました。春の特別展「濃飛の古墳時代」は県内外の注目を集め、秋の「移ろいゆく年中行事」は民俗に関わる特別展として画期的なものでありました。また、付知町との共催による「三尾暁峰とその門下生の作品展」は、地域の文化の発掘第1号として格別有意義な企画となり、東濃路から多数の来館者を迎えました。特に、待望久しかった「岐阜県博物館総合案内」が日本生命財団により刊行寄贈されたことは誠に喜ばしいことであり、これにより当博物館の一層の普及と活用が図られるものと期待しております。

今年度は、春の特別展「輪中と治水」に引き続き、夏には「白山の自然」で恐竜の足跡化石が発見され県民に太古へのロマンをかりたてた白山の動植物等を紹介し、秋の「濃飛の仏像」では格調の高い展示を企画しております。

百年公園の自然は四季を通じて心の疲れをいやし目を楽しませ、博物館は知的な満足と身内にひそむ創造性を啓発してくれるものと存じます。私どもは常にこの博物館の使命を再認識しながら、県民一人一人のご期待に添うよう、新しい時代に向けての博物館づくりに努力しております。

ここに、平成元年度の活動記録をまとめ館報第13号いたしました。皆さまのご指導とご協力に心から御礼を申し上げますとともに、今後とも一層のご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

平成2年4月1日

岐阜県博物館長 伊藤 秀幸

I 博物館概要

〔設置目的〕

岐阜県の人文、自然両分野にわたる諸資料を公開し、併せて、教育普及活動を行うことにより、広く県民の学習の場となり、また文化財保護の精神の涵養に役立て新しい教養と文化の発展に寄与することを目的とする。

〔基本的性格と方針〕

1. 基本的性格

岐阜県の人文（考古、歴史、民俗、美術工芸）自然（動物、植物、地学）等に関する諸資料の収集、保管、展示、調査研究及びその活用をはかる総合博物館とする。

学校教育・社会教育との密接な連携を図り、利用者が楽しく学習することができ、未来への探究心と創造性を開発させるような生涯学習機関とする。

県内の博物館および相当施設との連携をとり、資料の交換、提供をはかり、本県の中央博物館としての役割をはたす内容と設備を有する施設とする。

資料の開発及び保存活用について、専門的な調査研究を推進する。

2. 基本的方針

(1) 資料収集

県内の考古・歴史・民俗・美術工芸・自然等に関する資料を収集する。

資料は、実物を中心とするが必要に応じて厳密な考証にもとづく復元模型を含める。

寄贈、寄託、借用、購入等によって収集する。

(2) 展示構成

展示は、常設展示と特別展示とする。

常設展示は、総合展示と課題展示とし、それぞれ人文、自然の二部門に分ける。総合展示は、だれにも親しめるように平易な展示を心がけ、本県の歴史の発展の概要と、自然環境の概要を理解しやすく展示する。課題展示は、内容において、前者よりやや高度のものとする。

展示の方針は、「(ア)生涯学習の場として、幅広い層に親しめる展示。(イ)単なる資料の羅列では

なくストーリー性のある展示。(ウ)総花的展示を避け、各時代の特色やテーマの本質をとらえた展示。(エ)出来る限り実物資料を展示するが、さらに図表、模型等多種類の資料も活用。(オ)視聴覚機器など取り入れ観る人に強く訴える設備。(カ)明確でわかりやすい解説」とする。

展示室の主題と内容は次のとおりである。

○人文総合展示（人文展示室1）

主題「郷土のあゆみ」——原始時代から近代、現代に至るまでの歴史の流れと、各時代の特色をわかりやすく展示する。

○自然総合展示室（自然展示室1）

主題「郷土の自然とおいたち」——郷土の自然のあらましを生態的にわかりやすく展示する。

○人文課題展示（人文展示室2）

主題「郷土の美術工芸」——特色ある郷土の美術工芸を部門別、時代別に展示する。

○自然課題展示（自然展示室2）

主題「郷土のさまざまな自然」——特色ある自然物や事象をテーマ別に系統的に展示する。

○特別展示（特別展示室）

特定の企画とテーマを設けて年に数回展示する。

(3) 事業運営

資料は、本県の歴史的発展の立場から価値のあるもの、また県内の自然にかかわる価値のあるものを保全し、収集保存する。

常設展示は、県民の学習に役立たせるため、展示構成の充実をはかる。

特別展示はテーマの設定に配慮し内容の充実をはかる。

調査研究は、資料に関する専門的技術的な調査研究と資料の展示、保存に関する研究を行う。

教育普及は、各種の催しものを通じて県民の理解と関心を深め、生涯学習の場づくりをする。併せて各種の啓発活動を推進する。

〔沿革〕

岐阜県博物館は、置県百年記念事業の1つとして、昭和51年5月5日にアカマツの自然林のなかに開館した。

県内各地の豊かな資料をもとに、常設展示を自然展示室1・2、人文展示室1・2に分け、郷土岐阜県を紹介した総合博物館である。

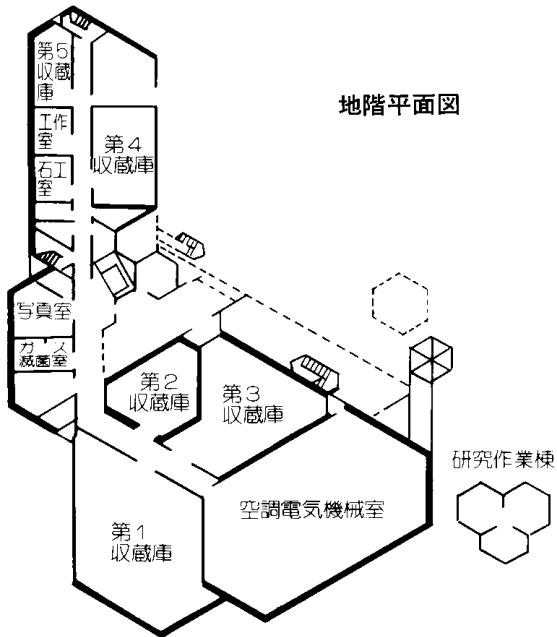
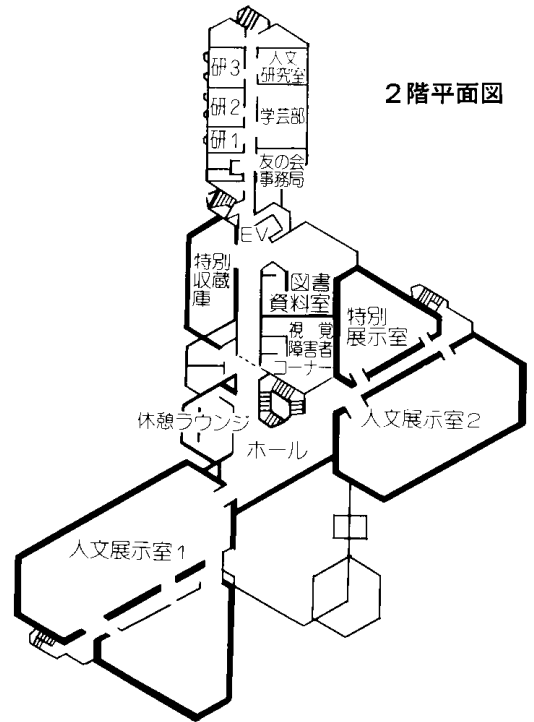
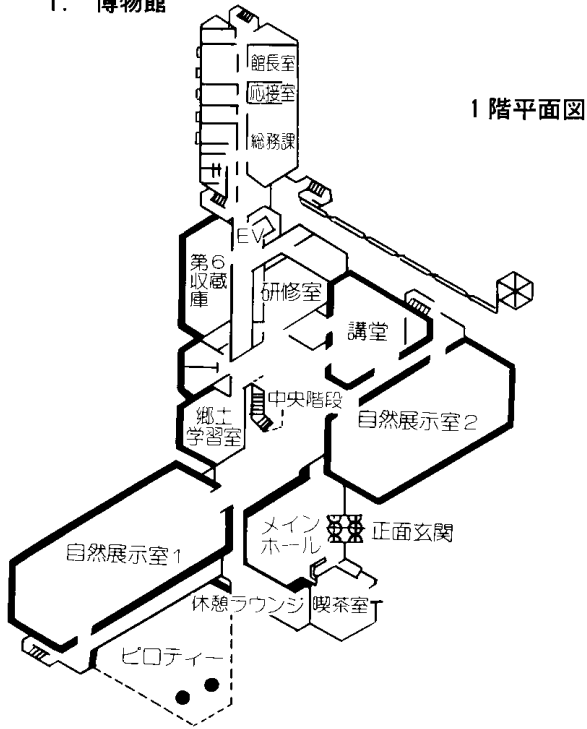
なお、年に数回の特別展も開催している。

博物館建設準備段階からの沿革は次のとおりである。

昭和46年3月	岐阜県百年記念事業推進委員会において、博物館の建設を決定	7月	特別展「化石の世界」
4月	教育委員会社会教育課に博物館準備担当を配置	10月	特別展「糞虫山人」
8～9月	博物館懇談会を設ける	昭和56年4月	特別展「美濃の絵馬」
昭和47年4月	博物館開設準備室を設置 展示委員会をつくる	5月	入館者60万人を突破
昭和48年8月	起工式挙行	7月	特別展「御岳山は生きている」
昭和49年3月	展示実施計画できる	10月	特別展「ふるさとの美濃古陶」
10月	定礎式	昭和57年4月	特別展「高賀山の信仰」 入館者70万人突破
昭和50年3月	展示工事着手	7月	特別展「ふるさとの植物」
7月	本館建築竣工	10月	特別展「東洋の貨幣」
昭和51年1月	展示工事完了	昭和58年4月	特別展「岐阜県の考古遺物」
4月	岐阜県博物館条例公布 岐阜県博物館設置 展示資料等製作完了	5月	入館者80万人を突破
5月	開館記念式典挙行一般公開 巨匠三人展・スポーツ栄光展	7月	特別展「長良川」
7月	皇太子同妃両殿下行啓	10月	特別展「郷土の生んだ先覚者」
8月	特別展「ふるさとの文楽」 入館者10万人を突破	昭和59年4月	特別展「濃飛の戦国武将」
10月	入館料徴収開始	7月	特別展「ふるさとの昆虫」
11月	特別展「熊谷守一展」	8月	入館者90万人を突破
昭和52年5月	特別展「日本伝統工芸秀作展」 入館者20万人を突破	10月	学習ビデオスタディコーナー設置 特別展「濃飛の蘭学」
7月	特別展「郷土の化石展」	昭和60年4月	特別展「濃飛の縄文時代」
11月	特別展「鉄斎」	7月	特別展「鉱物の世界」
昭和53年4月	入館者30万人を突破 特別展「濃飛の甲冑」	10月	特別展「美濃の刀剣」 入館者100万人を突破
7月	特別展「世界のコガネムシ」	12月	自然展示室2を改装
10月	特別展「能面と装束」	昭和61年4月	特別点「徳山の四季とくらし」
昭和54年4月	入館者40万人を突破 特別展「濃飛の先史時代」	7月	特別展「奥飛騨の自然」
7月	特別展「世界の貝」	9月	人文展示室1を改装
10月	特別展「濃飛の文人」	10月	開館10周年記念式典を挙行 開館10周年記念展「ふるさとの祭り」
昭和55年4月	特別展「宝暦治水と薩摩藩」	昭和62年4月	特別展「濃飛の弥生時代」 入館者110万人を突破
5月	入館者50万人を突破	7月	特別展「外国からの侵入した生きものたち」
		10月	特別展「飛騨の匠」 田徳山村民家移築復元
		昭和63年1月	自然展示室1を改装
		4月	特別展示室ショーケース改修 特別展「ふるさとの湿原」
		7月	中部未来博88記念展 「中山道一美濃十六宿」
		10月	特別展「中生代の化石」 入館者120万人突破
		平成元年1月	昭和から平成に年号変わる
		4月	特別展「濃飛の古墳時代」
		7月	特別展「ふるさとの野鳥」
		8月	16日恐竜足跡化石白川村で発見
		10月	特別展「移ろいゆく年中行事」
		11月	日本生命財団より図書「岐阜県博物館総合案内」4,000冊の寄贈

〔施設・設備〕

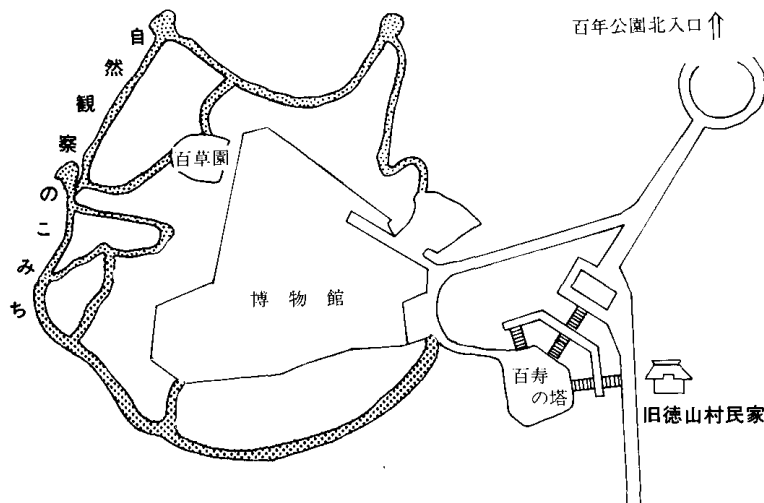
1. 博物館



・主要室名及び面積

	室名	面積 (㎡)
1階	自然展示室1	583.8
	自然展示室2	478.8
	郷土学習室	95.4
	講堂	174.5
	研修室	93.2
	第6収蔵庫	142.8
2階	人文展示室1	942.2
	人文展示室2	478.8
	特別展示室	193.2
	図書資料室	191.7
	視覚障害者コーナー	98.7
	特別収蔵庫	142.8
地階	第1収蔵庫	314.1
	第2収蔵庫	126.0
	第3収蔵庫	192.0
	第4収蔵庫	99.4
	第5収蔵庫	55.0

2. 野外施設



(1) 自然観察のこみち

館内における“郷土の自然”の展示に対応し自然環境の中に生きた展示として、季節とともに移り変わる自然のすがたを観察できるようにしたこみちである。

全長約 830mで、途中見晴らし台が3ヶ所、万葉集の植物の案内、ツツジの群生地、百草園、マンサクの林などが設けられている。

(2) 旧徳山村民家

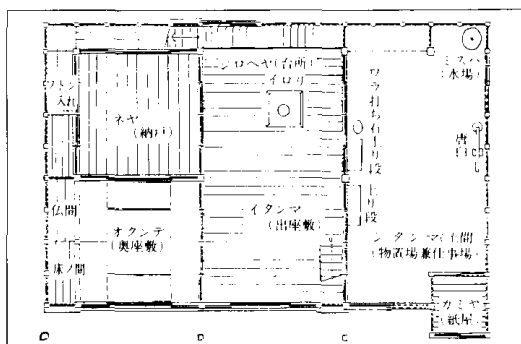
徳山ダム建設計画にともない、徳山村は閉村となり藤橋村になったが、徳山の生活を後世に語り継ぐため、当時徳山村戸入在住の宮川澄雄さんから家屋の提供を受け、昭和62年10月7日、移築復元を完了したもので、生活用具なども展示し無料開放している。

〈民家のあらまし〉

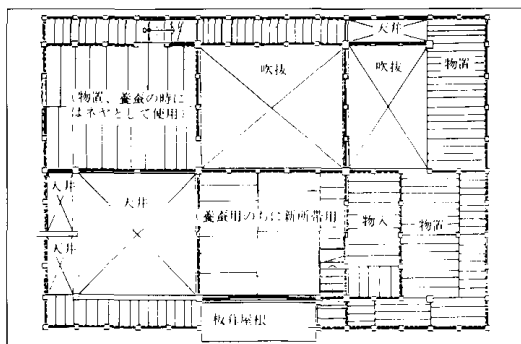
- ・様式 木造かやぶき2階建、南平入り
- ・主材 ブナ・トチ
- ・建面積 120.97㎡



- ・延面積 197.48㎡
- ・間取り 下図参照
- ・建築年代 幕末から明治初年ごろと推定
- ・屋根 入母屋式、切り落とし窓つき



▲1階間取り図

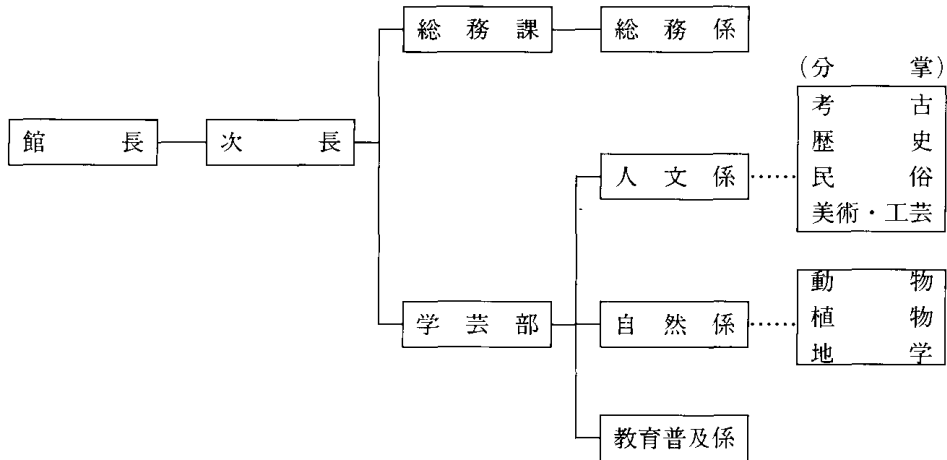


▲2階間取り図

II 平成2年度 組織・運営

〔組織〕

1. 機構



2. 職員

平成2年4月1日現在

職名	氏名	職名	氏名
館長	伊藤 秀幸	〔学芸部〕	
次長兼総務課長 〔総務課〕	竹下 修	学芸部長	清水 昭男
総務係長	武田 正雄	課長補佐(兼)人文係長	清安 藤和男
主任	山口 弘子	課長補佐	尾関 章忠
主事	鷺見 信明	〃	川瀬 善守
〃	吉田 明美	学芸主事	安田 利治
〃	鈴木 猛久	課長補佐(兼)自然係長	今津 利宏
技師	林 作男	課長補佐	國光 正俊
業務嘱託員	石井 敬子	〃	遠藤 俊治
〃	三浦 佳子	学芸主事	中島 恬明
〃	土田 みゆき	課長補佐(兼)教育普及係長	後藤 常満
〃	鳥戸 由里子	学芸主事	堀部 高司
〃	青木 千真	学芸嘱託員	大平 淳一
〃	藤井 敬子	〃	大沢 淳潤
			近藤 普

3. 博物館協議会

当協議会は、博物館の運営に関し、館長の諮問に応じ、又は意見を述べる機関として、岐阜

県博物館条例（昭和51年）第2条の規定に基づいて設置され、委員は次のとおりである。

◎…会長 ○…会長代理

平成2年4月1日現在（五十音順）

氏名	住所	現職
青木秀英	本巣郡真正町下真桑1148-1	岐阜県公民館連合会会長
石原太紀	関市大杉44-1	岐阜県高等学校長協会副会長
板倉又吉	羽島市竹鼻町2733	千代菊(株)取締役社長
篠田 薫	岐阜市粟野西1-10	かぐや第三幼稚園副園長
高木正義	養老郡養老町上方387-1	岐阜県中学校長会会長
高橋 彰太郎	本巣郡糸貫町七五三686	岐阜県小学校長会会長
○土屋 斉	大垣市荒尾町1077	(株)大垣共立銀行取締役会長
◎林 金雄	各務原市那加雲雀町37-2	岐阜大学名誉教授
堀 保	多治見市喜多町7-22	岐阜県私立中学高等学校協会会長
溝脇 昭人	岐阜市鷺山186-1	岐阜新聞社(株)論説委員
和田 吉弘	岐阜市長良白妙町1-5	岐阜大学教育学部教授

〔予算〕

当初予算額（単位：千円）

区分		年度	昭和62年度	昭和63年度	平成元年度	平成2年度
歳入	博物館使用料		9,166	12,528	12,434	10,664
	諸収入		313	279	281	287
	合計		9,479	12,807	12,715	10,951
歳出	管理運営費	運営費	31,869	31,460	32,375	42,870
		施設管理費	79,295	80,125	78,350	78,209
		博物館協議会費	308	308	335	335
		合計	111,472	111,893	111,060	121,414
	事業費	常設展示費	22,279	21,479	6,410	9,560
		徳山村文化遺産保存事業費	18,078	—	—	—
		恐竜足跡化石関連調査費	—	—	—	6,100
		特別展示費	7,200	10,000	8,693	8,710
		資料収集管理費	1,940	2,064	1,321	1,119
		教育普及活動費	2,400	2,400	2,677	2,650
	調査研究費	600	600	611	611	
	合計	52,497	36,543	19,712	28,750	
	合計	163,969	148,436	130,772	150,164	

〔事業計画〕

1. 展示活動

事業名	期間	主な展示内容
常設展		1階自然展示室は郷土の自然、2階人文展示室は郷土のあゆみと美術工芸を展示。刀剣コーナーは年4回展示替えを行う。
特別展 「輪中と治水」	4/25～6/17	輪中地域の絵図・民具・写真資料・宝暦治水の遺品などを展示し、輪中地域の変遷を治水という観点から紹介する。
「白山の自然」	7/11～9/9	化石・岩石、動物はく製、植物標本などを展示し、白山の地形・地史、豊かな自然相を紹介する。
「濃飛の仏像」	10/17～11/18	本県の優れた仏像の数々を展示し、併せて仏像の種類と形・材料と技法・時代ごとの特徴なども紹介する。
資料紹介展 「貨幣」	12/14～1/27	江戸時代以降の貨幣に関する資料を紹介する。
「人と石のふれあい」	2/10～3/31	石灰岩や花こう岩などでできた石製石を展示し、太古から現代までの人と石とのふれあいを紹介する。
移動展	8/9～8/21 8/24～9/2	飛騨・北アルプス自然文化センター 小坂町益田北部山村開発センター
		県内に見られる植物や動物を押し葉標本やはく製標本で紹介する。

2. 教育普及事業

事業名	期日	対象	定員	内容
特別展講演会	5/13	一般		輪中と治水－洪水と人間の相克の歴史－ 花園大学教授 伊藤安男氏
	5/27	"		木曾川上流改修工事と犀川事件 郷土史家 後藤時男氏
	7/29	"		白山火山について
	8/19	"		石川県白山自然保護センター専門研究員 東野外志男氏
	10/28	"		日本の高山生物と白山 名古屋女子大学教授 佐藤正孝氏
	11/11	"		日本の仏像の魅力 成城短期大学学長 清水眞澄氏 岐阜県の仏像 岐阜市文化財審議委員 吉岡勲氏
県博日曜講座①	4/29	小学生以上一般		化石を調べよう－微化石の世界－
②	5/5	"		輪中の生活と知恵 片野記念館長 片野知二氏
③	6/10	"		治水に尽くした人々
④	6/24	一般		古鏡の魅力
⑤	7/15	小学生以上一般		白山の植物
⑥	7/22	"		白山の昆虫
⑦	9/2	"		手取層群と恐竜
⑧	1/20	一般		貨幣の歴史
自然観察会	4/22	小学生以上一般	30	水生昆虫を調べよう
	8/4～5	親子	"	白山の自然を訪ねて
	9/16	小学生以上一般	"	秋に鳴く虫とその仲間たち
	2/24	"	"	野鳥をみよう
	3/24	"	"	春の草花
親子教室	5/3	親子	30	やきもの1(土器・はにわなどをつくろう)
	6/3	親子・一般	"	植物標本をつくろう
	7/1	親子	"	やきもの2(日用品をつくろう－施釉)
	8/12	"	"	火おこし器をつくろう
	8/26	"	"	竹細工(箆・竹とんぼなどをつくろう)
	12/2	"	"	版画(年賀状をつくろう)
	12/9	"	"	凧づくり(つくって揚げよう)
	12/16	"	"	わら細工(しめなわをつくろう)
写生会	2/17	小学生以上一般		博物館資料をかこう(甲冑・土器・鳥・動物など)
ふるさと探訪	10/14	親子・一般	37	金生山の化石とカルスト地形を訪ねて
	3/3	"	"	前期古墳を訪ねて－東之宮・伴飯大塚古墳など－
民俗芸能	5/4	一般		関孫六太鼓 (雨天順延 5/6)
スタディー・コーナー	2か月ごとに展示替え。			ふるさとの化石…新生代(3・4月) 岐阜県のへび(5・6月) 百年公園の「きのこ」(7・8月) ふるさとの地下資源…金属鉱床(9・10月) ふるさとの冬鳥(11・12月) 岐阜県の「ネコノメソウ」(1・2月) ふるさとの岩石…堆積岩(3・4月)
日曜映写会外	4/25～6/17			輪中(16mm) 薩摩義士(ビデオ)

III 平成元年度のあゆみ

〔職員〕

職名	氏名	職名	氏名
館長	伊藤 秀幸	〔学芸部〕	
次長(兼)総務課長 〔総務課〕	竹下 修	学芸部長	清水 昭男
課長補佐(兼)総務係長	福田 正美	課長補佐(兼)人文係長 (~8/10)	清水 廣美
主任	山 口 弘子	〃 (8/11~)	安藤 和男
主事	鷺見 信明	課長補佐	尾関 章忠
〃	吉田 明美	学芸主事	川瀬 善治
〃	鈴木 猛久	〃	今津 利治
技師	林 作男	教育主事 (~8/10)	今井 雅巳
業務嘱託員(~8月)	山口 誉里子	課長補佐(兼)自然係長	國光 正宏
〃	石井 敬子	課長補佐	遠藤 俊治
〃	三浦 佳子	〃	中島 恬明
〃	土田 みゆき	学芸主事	後藤 常明
〃	島戸 由里子	学芸嘱託員	長谷川 道明
〃	青木 千真	課長補佐(兼)教育普及係長	堀部 満司
〃 (9月~)	藤井 敬子	学芸主事	大平 高淳
		学芸嘱託員	大沢 普潤
		〃	近藤 普潤

〔日誌抄〕

人事異動

退職 館長	森崎 利光	転入 館長	伊藤 秀幸
学芸嘱託員	青木 修	次長(兼)総務課長	竹下 修
業務嘱託員	織部 清美	学芸部長	清水 昭男
〃	吉田 育子	課長補佐(兼)教育普及係長	堀部 満
〃 (8月31日)	山口 誉里子	課長補佐	遠藤 俊治
転出 次長	沢田 豊	学芸主事	今津 利治
学芸部長	鳥居 甚吾	〃	後藤 常明
総務課長	柳瀬 実	主事	吉田 明美
課長補佐(兼)自然係長	曾我 敏男	〃	鈴木 猛久
教育普及係長	馬淵 隆	課長補佐(兼)人文係長	安藤 和男
庶務係長	尾野 元啓	〃 (8月11日)	
学芸主事	名和 正浩	新任 学芸嘱託員	近藤 普潤
〃	安藤 志郎	業務嘱託員	島戸 由里子
主事	伊藤 武嘉	〃	青木 千真
課長補佐(兼)人文係長	清水 廣美	〃 (9月1日)	藤井 敬子
〃 (8月11日)			
教育主事 (8月11日)	今井 雅巳		

平成元年

- 4・1 「岐阜県博物館報」第12号発行
- 〃 「博物館だより」第38号発行
- 〃 展示案内「ここをじっくり」発行
- 23 博物館友の会総会
- 〃 自然観察会「水生昆虫(津保川を探索)」
- 26 特別展「濃飛の古墳時代—古代からのタイムカプセル—」開場(6月18日まで)
- 30 日曜講座「スマイレの観察」
- 5・3 親子教室「やきもの(はにわをつくる)」
- 4 民俗芸能「関孫六太鼓」
- 7 シンポジウム「美濃の前期古墳」
- 9 岐阜県博物館協会通常総会
- 19 四館連絡会議
- 21 特別展講演会「須恵器の時代」
- 23 百年公園と博物館との連絡会議
- 28 親子教室「ハンコ彫り(自分の名前のハンコを彫る)」
- 6・4 自然観察会「津保川の植物」
- 11 ふるさと探訪「輪中を訪ねて」
- 18 日曜講座「鉱物のみかた・しらべ方」
- 20 中国江西省曲技団長鄭光荣外3人来館
 「中国江西雜技団」より名皿の贈呈
- 7・1 「博物館だより」第39号発行
- 9 日曜講座「村芝居と農村舞台」
- 12 特別展「ふるさと野鳥」開場
 (9月17日まで)
- 〃 岐阜県博物館協議会
- 21 移動展「ふるさと植物と動物たち」
 (白鳥町社会福祉センター～30日)
- 28 秋本敏文副知事博物館視察
- 30 特別展講演会「ふるさと野鳥」
- 8・2 移動展「ふるさと植物と動物たち」
 (郡上八幡総合文化センター～11日)
- 5～6 自然観察会「御岳の自然をたずねて
 (針葉樹林の動物・植物)」
- 13 親子教室「火おこし器をつくろう」
- 20 日曜講座「鳥を知ろう」
- 23 梶原拓知事特別展を鑑賞
- 9・3 日曜講座「明治時代の学校教育」
- 10 親子教室「やきもの(日用品をつくる)」
- 17 日曜講座「美濃の藩札」

- 24 自然観察会「秋に鳴く虫」
- 10・1 「博物館だより」第40号発行
- 4 特別展「移ろいゆく年中行事」開場
 (11月26日まで)
- 8 日曜講座「果実の話(実のなる木)」
- 15 特別展講演会「時と季節のまつりごと」
- 29 自然観察会「化石のみかた・しらべ方」
- 11・5 親子教室「竹細工(笛・竹トンボなど
 玩具をつくる)」
- 8 「岐阜県博物館総合案内」贈呈式
 日本生命財団理事長高橋壽常様より岐
 阜県知事へ4,000冊贈呈



- 12 特別展講演会「岐阜県の山の講」
- 13 恐竜足跡化石発見(白川村にて)につ
 いて県博物館長記者発表
- 19 日曜講座「こどもと年中行事」
- 12・1 梶原拓知事百年公園及び博物館視察
 同行、教育長、土木部長
- 3 親子教室「版画(年賀状をつくる)」
- 10 親子教室「凧づくり(つくって揚げよう)」
- 13 資料紹介展「硯」(1月30日まで)
- 17 親子教室「しめなわづくり」
- 1・14 日曜講座「甲冑の歴史」
- 17 「三尾暁峰とその門下生の作品展」
 (2月18日まで)
- 2・4 親子教室「拓本をとろう(基本実技・
 取拓)」
- 11 資料紹介展「ブナ林」(3月31日まで)
- 18 日曜講座「ブナ林の植物」
- 25 写生会「館蔵資料を描く」
- 3・4 日曜講座「野鳥を友に」
- 9 平成元年度岐阜県博物館協会常任理事会
- 31 「岐阜県博物館調査研究報告」第11号
 発行

〔実施事業〕

本年度の展示活動では、春の特別展「濃飛の古墳時代」が前年同期より入館者を増やし全国から同好者を集めたのが注目される。夏・秋の特別展は名古屋市で開催されたデザイン博の影響もあり、入館者がやや減少した。

教育普及活動は、参加総人数は1,481人で昨年より少し減ったが、一回あたりの平均は46.3人

(昨年は43.6人)で若干増加した。新聞等への広報活動が有効であったようだ。観察したり物を作り上げたりする催しものに人気がある。ふるさと探訪「人と石のふれあい」は運動会などのシーズンのため人が集まらず中止になった。今後は実施時期にもっと配慮したい。

1. 展示活動

事業名	期間	主な展示内容	入館者数
常設展		1階自然展示室は郷土の自然、2階人文展示室は郷土のあゆみと美術工芸を展示。刀剣コーナーは4回展示替え。	55,891
特別展 「濃飛の古墳時代-古代からのタイムカプセル」	4/26~6/18	濃飛の古墳文化の代表的遺産を一堂に集め、古墳時代の特色や人々の生活文化の実相を紹介する。	15,924
特別展 「ふるさとの野鳥」	7/12~9/17	鳥の生態やふるさと岐阜県の野鳥を紹介し、人と野鳥とのかかわりを考える。	8,551
特別展 「移ろいゆく年中行事」	10/4~11/26	四季の変化と暦・生業とのかかわりのなかで年々歳々うつろいゆく年中行事を紹介する。	14,145
資料紹介展「硯」「ブナ林」	12/13~1/30 2/11~3/31	端溪を中心とした古硯約40面を紹介する。 ブナ林に見られる様々な植物について紹介する。	2,403 5,989
移動展	7/21~7/30 8/2~8/11	白鳥町社会福祉センター 県内に見られる植物や動物を押し葉標本や剥製標本で 郡上八幡総合文化センター 紹介する。	1,156 1,900

2. 教育普及活動

事業名	期日	対象	定員	内容	参加人数
特別展講演会外	5/7	一般		美濃の前期古墳(シンポジウム) 赤塚 次郎氏・中井 正幸氏・長瀬 治義氏・森下 浩氏	115
	5/21	"		須恵器の時代 大谷女子大学助教授 中村 浩氏	123
	7/30	"		ふるさとの野鳥 日本野鳥の会岐阜県支部事務局長 大塚之穂氏	123
	10/15	"		「時」と「季節」のまつりごと 当館学芸部長 清水 昭男	47
	11/12	"		岐阜県の山の講 元岐阜県歴史資料館長 角竹 弘氏	77
	①	4/30	小学生以上・一般	30	スマイルの観察
②	6/18	"	30	鉱物のみかた・しらべ方	64
③	7/9	一般	6	村芝居と農村舞台	6
④	8/20	小学生以上・一般	66	鳥を知ろう	66
⑤	9/3	一般	9	明治時代の学校教育	9
⑥	9/17	"	16	美濃の藩札	16
⑦	10/8	小学生以上・一般	19	果実の話(実のなる木)	19
⑧	11/19	一般	13	こどもと年中行事	13
⑨	1/14	"	18	甲冑の歴史	18
⑩	2/18	"	65	ブナ林の植物	65
⑪	3/4	小学生以上・一般	69	野鳥を友に	69
自然観察会	4/23	小学生以上・一般	30	水生昆虫(津保川を探る)	12
	6/4	"	30	津保川の植物	16
	8/5・6	親子	37	御岳の自然をたずねて(針葉樹林の動物・植物)	37
	9/24	小学生以上・一般	30	秋に鳴く虫	24
	10/29	"	30	化石のみかた・しらべ方	43
親子教室	5/3	親子	30	やきもの1(はにわをつくる)	60
	5/28	"	30	ハンコ彫り(自分の名前のハンコを彫る)	20
	8/13	"	30	火おこし器をつくろう	56
	9/10	"	30	やきもの2(日用品をつくる…施釉)	56
	11/5	"	30	竹細工(笛・竹トンボなど玩具をつくる) 竹細工師 石原 文雄氏	33
	12/3	"	30	版画(年賀状をつくる)	22
	12/10	"	30	凧づくり(つくて揚げてよう) 竹細工師 石原 文雄氏	47
	12/17	"	30	しめなわづくり ワラ細工師 大野 仁久氏	52
	2/4	"	30	拓本をとろう(基本実技・取拓)	13
写生会	2/25	小学生以上・一般		館蔵資料を描く(甲冑・縄文土器・民具・動物はく製・昆虫・化石など)	100
ふるさと探訪	6/11	親子・一般	37	「輪中を訪ねて」(片野記念館、船頭平、活水神社、三川公園、役館跡)	20
	11/1	"	37	「人と石のふれあい」(蛭川村博石館・瑞浪鉱物(宝石)展示館など見学)	中止
民俗芸能	5/4	一般		関係六太鼓	約800
スタディ・コーナー	2か月ごとに展示替え(入館者対象)			ふるさとの岩石…変成岩(3・4月) 百年公園の昆虫(5・6月) 水辺の植物…津保川(7・8月) ふるさとの化石…古生代(9・10月) 哺乳動物の頭骨(11・12月) 百年公園の常緑樹(1・2月) ふるさとの化石…新生代(3・4月)	
日曜映画会 ビデオ上映	4/26~6/18	入館者		「美濃の前方後円墳」「古墳副葬品の美」(以上ビデオ)	
	7/12~9/17	"		「ふるさとの野鳥」(スライド)「野鳥の四季」「バードウォッチング」特別天然記念物(以上ビデオ)	
	10/4~11/26	"		「今尾の左義長」(16mm)「今尾の左義長」「白鳥の買初め」(以上ビデオ)	

〔常設展〕

1. 書画コーナー

元年6月4日名古屋市在住の岩田雀さんから狩野定鷹筆「鷹の図」屏風（八曲一隻）が寄託された。桃山末期から江戸初期に描かれたもので岐阜市東鶉にあった岩田家が郡上藩青山氏から拝領したものである。この屏風を6月27日か

ら7月23日まで展示した。

2. 刀剣コーナー

当館では人文展示室2に刀剣コーナーを設け、美濃の刀剣を中心に展示している。例年4回の展示替えを行っている。平成元年度の展示資料は下記の通りである。

第 1 期	第 2 期	第 3 期	第 4 期
平成元年5月1日 ～平成元年7月30日	平成元年7月31日 ～平成元年10月22日	平成元年10月23日 ～平成2年1月28日	平成2年1月29日 ～平成2年3月31日
刀 無銘 志 津 刀 無銘 直 江 志 津 刀 銘 濃州赤坂住兼元 刀 無銘 志 津 刀 銘 兼 元 刀 銘 兼 道 刀 無銘 大 道 太刀 銘 兼 光	刀 無銘 志 津 刀 無銘 直 江 志 津 刀 銘 濃州赤坂住兼元 短刀 銘 兼 元 短刀 銘 兼 常 短刀 銘 兼 法 太刀 銘 兼 光 十文字槍銘 国 重 大身槍銘 同 田 貫 信 賀	刀 無銘 志 津 刀 無銘 直 江 志 津 刀 銘 濃州赤坂住兼元 太刀 銘 波 平 行 安 太刀 銘 長 谷 部 国 信 太刀 銘 兼 光 十文字槍銘 国 重 大身槍銘 同 田 貫 信 賀	刀 無銘 志 津 刀 無銘 直 江 志 津 刀 銘 濃州赤坂住兼元 太刀 銘 波 平 行 安 太刀 銘 長 谷 部 国 信 刀 銘 国 信 刀 銘 兼 道 脇指 銘 丹 波 守 吉 道

3. スタディ・コーナー

動物・植物・地学の各分野ごとに輪番で学芸活動のささやかな発表の場として、トピック的な問題を取り上げたり、小さなテーマを設定したりして、学習コーナーとして活用しながら資料を紹介している。

「ふるさとの岩石……変成岩」……3月～4月

県内に分布する変成岩を、熱を受けて変化した接触変成岩グループと、熱と圧力を受けて変化した広域変成岩グループに分けて紹介。

「百年公園の昆虫（1）」……5月～6月

百年公園に生息する昆虫類を標本を使って紹介。今回は第一回目としてギフチョウ・アゲハチョウなどチョウ類49種を紹介。

「水辺の植物……津保川」……7月～8月

津保川の岸辺に生育する植物を、新しい標本を用いて紹介。

「ふるさとの化石……古生代」……9月～10月

岐阜県は種々の化石が産出することで有名である。今回は上宝村福地・大垣市赤坂町金山山の化石など古生代の化石について紹介。

「哺乳動物の頭骨」……11月～12月

飼育されているイヌ、ブタ、ウシを含めて、県内に生息しているツキノワグマ、イノシシからネズミ・モグラ類の小型哺乳動物まで23種の頭骨を紹介。

「百年公園の常緑樹」……1月～2月

百年公園内で見られる常緑樹70種類のうち、自然に生育している種類を紹介。

「ふるさとの化石……新生代」……3月～4月

岐阜県は種々の化石が産出することで有名である。今回は瑞浪市産出の化石など新生代の化石について紹介。



〔特別展〕

1. 濃飛の古墳時代

4月26日(水)～6月18日(日)

美濃は、東海地方の中で最も濃密に古墳が分布する地域として知られ、美濃より約百年遅れて古墳時代に入った飛騨では独自の古墳文化が育まれた。本展では県内で出土した全時期の古墳副葬品を中心に、110件、1,150点余の資料を一堂に会し、現時点までに判明している濃飛の古墳文化の全容を明らかにすることができた。その意味で、本展への関心は、全国的な広がりを見せ、関西・関東地方の研究者も多数入館するという反響を呼び、一般入館者総数においても「縄文展(’85年)」・「弥生展(’87年)」を凌ぐ盛況を得ることができた。

〈展示構成の概要〉

展示は、Ⅰ畿内王権と美濃、Ⅱ馬の時代のはじまり、Ⅲ飛騨の古墳時代、Ⅳ土器と暮らしのうつりかわり、Ⅴ変わりゆく古墳—後期古墳の時代—、Ⅵ前期古墳にみる古墳の祭り、Ⅶ律令と仏教の時代へ、の7つのコーナーで構成した。

畿内王権と美濃では、美濃の前期古墳から出土した鏡(50面)、石製品(150点余)などを中心に展示を構成した。特に、東京国立博物館から初めて里帰りした多数の資料が注目を浴び、また国重文の優品(野古墳群から出土した鏡や東之宮古墳の一括資料)は、この地域の質の高さを物語っていた。また、本展で初めて一般に公開された鏡5面(個人蔵)を初めとする新鮮な資料も数多く展示された。

馬の時代のはじまりでは、県内出土の主な馬具類のほぼすべてが展示された。

飛騨の古墳時代に展示された資料の大半は、その所在が知られながらも、これまで広く一般に公開されたものが少なく、研究者をはじめ、多くの人々の関心を集めることとなった。



土器と暮らしのうつりかわりでは、土師器から須恵器の時代へという「土器革命」の時代の特色を大量の土器を展示することにより明らかにした。なかでも、陶邑窯の須恵器51点と美濃出土の須恵器編年比較展示は好評を得た。また、土師器では、牧野小山遺跡の資料が10数点完形に復され展示されたことや、阿曾田遺跡や檀洞遺跡などの古墳時代住居跡から出土した100点余の生活資料の数々は、当時の人々の暮らしを考えるうえで新鮮な情報を提供していた。

変わりゆく古墳—後期古墳の時代—では、横穴式石室導入後の古墳副葬品のうち、各地域を代表する古墳の副葬品を一括資料として展示した。特に陽徳寺1号墳や二又1号墳の編年配列展示や、各地域の豊富な須恵器の数々は、この時期の美濃の豊かさを物語るものであった。

前期古墳にみる古墳の祭りでは、東海地方の主な埴輪を展示し、古墳の祭りの一端を紹介した。また、このコーナーでは、縄文時代から鎌倉時代までの墓制の変遷も紹介し、関係資料を展示した。

律令と仏教の時代へでは、美濃が挙兵地となった壬申の乱を節目として、古墳時代が終焉したことを、古代寺院の瓦や不破関関係資料などを展示することにより示し、本展のエピローグとした。

なお本展では古墳ジオラマや副葬品の模型など、当館博物館職員製作による参考資料も多数展示した。

〈関連事業〉

- シンポジウム「美濃の前期古墳」 5月7日(日)
講師 赤塚次郎・中井正幸・藪下浩・長瀬治義各氏
- 講演会「須恵器の時代」 5月21日(日)
講師 大谷女子大学助教授 中村 浩氏
- 親子教室「やきもの(はにわをつくる)」5月3日(祝)



2. ふるさとの野鳥

7月12日(水)～9月17日(日)

岐阜県は、およそ83%が森林で覆われている。そして、この恵まれた自然の中で257種もの野鳥を見ることができる。山岳地帯ではライチョウ、イヌワシ、平野部ではケリ、アマサギなど多くの鳥たちが繁殖している。また、河川ではマガモ、オナガガモなどのカモ類がみられ、木曾川には珍しい冬鳥のコウライアイサも渡ってくる。

このように岐阜県には、数多くの野鳥が生息している。しかし一方では開発の波は確実に押し寄せ湖沼の汚染、河川の改修、山林の伐採がすすみ、餌場や営巣地が少なくなり、野鳥にとってすみにくい環境となりつつある。そうした中で街路樹に巣作りしているキジバト、ビニールひもを巣づくりの材料としているカラスなど環境の変化にうまく順応し、都市に進出している鳥の姿も見られる。

今回の特別展では、県内に見られる野鳥たちの姿やその生態を紹介した。展示を通して私たちの身近な野鳥に目を向け、ふるさとの自然を理解する一助となることを意図した。

この特別展を通して、さらに館蔵資料の充実を図り、県内で記録された野鳥(52科257種)の約70%(剥製標本277点)を展示紹介することができた。

<展示内容>

展示は、次の4つのコーナーで構成した。

① 鳥とは

鳥類の進化のようすや飛ぶための体のつくりと仕組みを始祖鳥化石(複製)、キジ・トビ・カラスの全身骨格などで解説した。また生息地域によって羽の色が変わる地理的変異をヤマドリ



(大分、岐阜産)・キジ(福岡、岐阜、山形産)を例に紹介した。

(2) 岐阜県の鳥ライチョウ

昭和40年県の鳥に指定されたニホンライチョウとその仲間であるオオライチョウ、クロライチョウ、エリマキライチョウ、カラフトライチョウ、エゾライチョウの6種類の標本を展示した。そして、世界の分布や笠ヶ岳におけるなわばりなどその生態を紹介した。

(3) ふるさとの野鳥

岐阜県で確認されている野鳥のうち、180種ほどの標本、写真を分類展示した。中でも、トキは70年前加茂郡七宗町神淵で確認され、以後県内でみられない鳥であり、その白く美しい姿は印象的であった。実物のトキの姿は、人の手による自然破壊の犠牲者として、同じ過ちを繰り返さないよう多くの人々への自然保護を訴えかけるものであった。

(4) 野鳥を守ろう

鳥類が地上に現れてからこれまでに数えきれないほどの種が絶滅した。しかもここ数世紀の間には、そのスピードは加速されている。ここでは、イヌワシ、コウノトリなど絶滅しつつある野鳥や希少な野鳥を写真パネルで紹介し、自然保護の大切さを強調した。

<関連事業>

○講演会 7月30日(日)

演題 「ふるさとの野鳥」

講師 日本野鳥の会岐阜県支部事務局長
大塚 之稔氏

○県博日曜講座 8月20日(日)

「鳥を知ろう」



3. 移ろいゆく年中行事

10月4日(水)～11月26日(日)

「年中行事」とは毎年毎年おなじ時期に繰り返される行事のことである。春、夏、秋、冬の四季の変化と暦、生業(なりわい)とのかかわりの中で、年中行事は、年々歳々その形を変えながらも、私たちの生活に受け継がれてきた。

農耕民族として生き、生活してきた私たちの祖先は、何を願い、祈り、夢を託してきたのだろうか。

この特別展では、さまざまな年中行事を紹介しながら、その起こり、由来を考え、さらには年中行事がこどもの成長に果たしてきた役割に焦点をあて、自然に生まれつつ生活するなかから、未来への明るい夢と希望を見出せる展示とした。

〈展示構成の概要〉

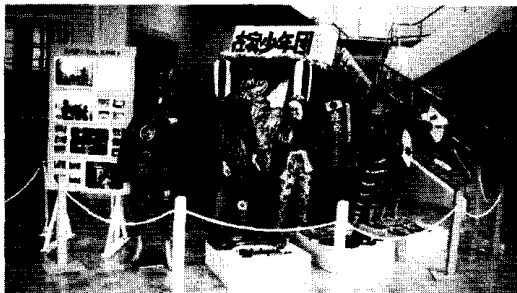
1) さまざまな年中行事

このコーナーでは、農耕と年中行事とは切っても切れない関係があることから、文盲の人にもわかる南部暦や旧家に伝わる年中行事に関する記録等を展示して導入とし、白山中居神社の五段の神楽(石徹白)、節分、初午・お蛸祭り等春夏秋冬の主な行事を展示紹介した。

(2) 正月と盆

正月は、年中行事のハイライトである。12月の暮から正月の準備が始まり、年が明けて元旦には歳神を迎え、年賀の挨拶を交わし、おせち料理をいただく。

1月1日から始まる豊作祈願や占いに関する各地の行事(予祝儀礼)、シメ縄、郷土料理、左義長等を展示し、自然の中で生かされてきた人々の素朴な祈りや行事のもつ意味を理解できるようにした。



盆のコーナーでは、祖霊を迎えて供養し、16日には送り火を焚き精霊船で霊を送るまでの一連の行事を紹介した。

(3) こどもの世界

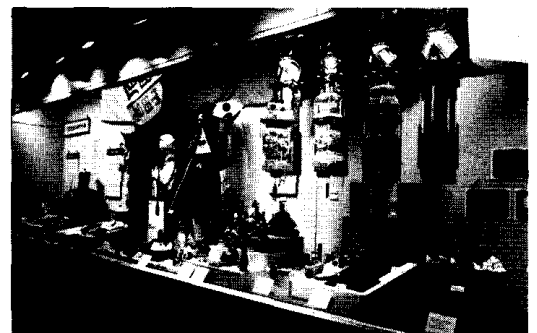
このコーナーでは、吉城郡上宝村の「天神祭り」、「山の子」の行事を中心に展示するとともに、今では行われなくなった行事を紹介して、地域の中でこどもたちが大切に育てられてきた年中行事を「こどもを育てる年中行事」として紹介することにより、伝統的な行事の継承の必要性を理解できるようにした。

(4) 年中行事を支える自然

さまざまな年中行事は、豊かな自然の中で育まれてきた。このコーナーでは、土、竹、藁、紙、餅を取り上げて、行事の中心として、あるいは、行事に必要な道具の材料として用いられている例を紹介するとともに、こどもの遊び道具を展示して、自由に手にとって遊べるように工夫した。

〈関連事業〉

- 講演会 10月15日(日)
演題 「時と季節のまつりごと」
講師 当館学芸部長 清水 昭男
- 講演会 11月12日(日)
演題 岐阜県の山の講
講師 元岐阜県歴史資料館長 角竹 弘氏
- 親子教室 11月5日(日)
テーマ 「竹細工(笛・竹トンボなど玩具をつくる)」
講師 竹細工師 石原文雄氏
- 県博日曜講座 11月19日(日)
「こどもと年中行事」



〔資料紹介展〕

1. 硯

12月13日(水)～1月30日(火)

近年書道に親しむ人が増え、静かなブームとなっている。私たち日本人は幼いうちから書に触れる機会が多く、その用具についての関心も高いものがある。その中でも硯は、筆・墨・紙とともに文房四宝と呼ばれ、その筆頭にあげられ、中国で発達してきた。初めは長方形だったが、次第にさまざまな形の硯が作られ、美しい色・模様の現れた石が賞美されるようになった。

中でも中国広東省の端溪から採石される石は、石質、石色が変化に富んでいることから、「硯

1. 硯の歴史(4点)

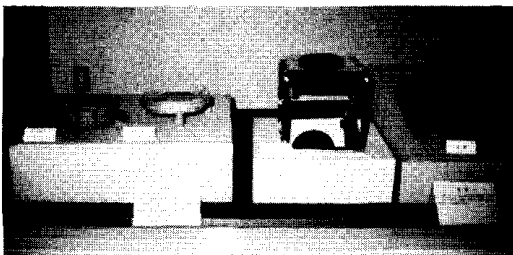
展示番号	資 料 名	寸 法
		巾cm×長cm×厚cm
1	円面硯(奈良時代)	18.1×18.1× 8.1
2	熊足硯(平安時代初期)	28.1× 8.6× 8.6
3	瓦硯	28.0×37.0× 7.0
4	瓦当硯	14.5×14.5× 2.2

2. 中国の硯(20点)

5	端溪花中君子硯	12.5×18.5× 1.7
6	端溪貨布硯	8.5×13.5× 1.6
7	端溪古硯	6.0× 9.0× 0.6
8	端溪古硯	15.0×19.0× 2.5
9	端溪古硯<水巖>	11.1×16.0× 1.7
10	新端溪硯	8.5×12.8× 1.8
11	新端溪硯<宋抗>	13.8×22.5× 2.3
12	端溪古硯	6.7× 8.8× 1.7
13	歙州金星龍尾硯	13.0×18.8× 5.0
14	歙州粗羅紋硯板	17.5×25.5× 3.5
15	歙州粗羅紋硯板	13.0×19.8× 5.0
16	新歙州硯	20.5×31.0× 4.2
17	羅紋石墨池	17.5×21.0× 3.5
18	福州石硯	9.5×14.5× 1.8
19	中国古硯	9.4×14.0× 3.5
20	朱硯	10.0× 7.2× 2.5
21	黎溪石古硯	17.0×23.0× 4.0
22	黎溪石硯	21.0×19.5× 2.4
23	中国硯<石種不明>	17.0×19.5× 6.8
24	ぎょく石硯	6.3× 9.0× 1.5

3. 日本の硯(22点)

25	丸形雨畑石硯<竹内栖鳳案 雨宮静軒作>	12.0×12.0× 2.0
26	丸形雨畑石硯<雨宮静軒作>	15.0×15.0× 2.8
27	雨畑石硯<雨宮静軒作>	9.0×13.5× 2.0
28	雨畑石琵琶硯	9.7×19.7× 2.0
29	雨畑石硯<竹内栖鳳案 雨宮静軒作>	5.8× 5.8× 2.7
30	雨畑石硯	9.3×13.8×10.7
31	雨畑石硯	7.7×13.7× 1.7
32	赤間石共蓋付硯	14.5×20.0× 3.5
33	赤間石足付硯	7.7×12.0× 4.0



の王者」といわれている。

日本では奈良・平安時代には陶硯、瓦硯が多く用いられていたが、鎌倉時代になって石硯が造られるようになった。高島石(滋賀県産)・赤間石(山口県産)・雨畑石(山梨県産)などは日本の石硯の代表として知られている。

当館では昭和62年度に県内のコレクターから61面の貴重な硯の寄託を受け、資料紹介の準備を進めてきた。今回の資料紹介展では書家で硯の研究家の窪田一郎氏(号・華堂、揖斐郡揖斐川町)の指導で端溪を中心に67点を展示した。

硯の歴史ほか5つのコーナーに分けて、次の資料を展示した。

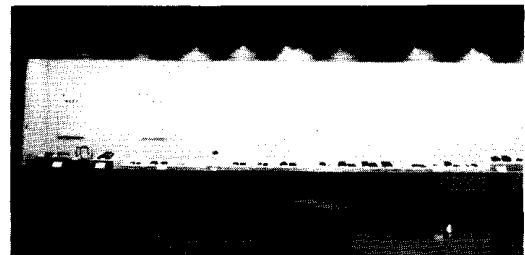
展示番号	資 料 名	寸 法
		巾cm×長cm×厚cm
34	赤間石長方古硯	11.0×29.0× 4.2
35	赤間石古硯	12.7×23.2× 2.2
36	赤間石硯	15.0×23.0× 2.3
37	赤間石古硯	28.0×28.0× 3.0
38	虎斑石硯	18.0×30.2× 4.5
39	斧棧硯<蒔絵蓋付>	7.5×11.5× 1.0
40	蓬萊硯古硯<北島雪山硯墨齋賞展出品>	15.0×16.2× 3.7
41	鳳鳴石硯<名倉鳳山作>	14.0×17.5× 1.8
42	鳳鳴石硯<名倉鳳山作>	10.5×20.2× 2.0
43	高田石硯<梅丘作>	16.0×14.0× 2.5
44	琉球石硯	19.4×30.4× 5.3
45	美濃高田石硯	18.5×25.4× 6.0
46	虎斑石硯	11.0×14.0× 2.2

4. 朝鮮の硯(5点)

47	朝鮮鍾城石硯	10.0×16.0× 2.5
48	朝鮮海州石硯	9.0× 9.0× 1.8
49	朝鮮渭原海州石硯	15.0×21.2× 1.7
50	朝鮮海州石硯	11.7×18.1× 3.3
51	朝鮮鍾城石硯	12.0×19.3× 2.5

5. いろいろな硯(16点)

52	朱泥焼古硯	4.3× 8.5× 4.0
53	朱泥焼硯	7.6× 7.6× 1.0
54	陶硯<湖東焼>	9.8×12.7× 2.2
55	陶硯	9.0×13.5× 2.5
56	陶硯	12.0×20.1× 3.5
57	陶硯 常滑焼<杉江寿門作>	11.0×11.0× 1.7
58	金唐皮サック入り硯	10.5×15.0× 1.0
59	新硯<石種不明>	11.3×18.0× 4.5
60	倣古瓦硯	14.0×22.0× 2.3
61	小硯<石種不明>	4.0× 6.0× 1.1
62	小硯	6.5× 9.7× 0.6
63	倣製猿面硯	10.7×15.4× 3.5
64	小呂硯	3.0× 5.3× 0.7
65	型抜き硯	24.5×41.0× 3.3
66	型抜き硯	25.0×22.5× 3.3
67	鎌倉形重硯(10人分)	5.5×13.6× 1.5



2. ブナ林

2月11日(日)～3月31日(土)

地球環境の変化が問題となり、自然林の減少も変化の原因の一つにあげられている。岐阜県の代表的な自然林、ブナ林も減少が著しく、そのための環境変化が私たちの生活にどのようにかかわってくるのかという問題を提起した。

史前よりブナ林は日本の河川の源流域を占めてきた。ブナ林は保水力の大きい肥沃な土壌を作るため、その水源涵養機能がダムにたとえられて『緑のダム』と言われる。また、日本のブナ林は多くの生物を育み、得られる食料や資材も豊かで山里に暮らす人々には『恵みの森』とも言われてきた。

今回の展示は、県内各地のブナ林で得られた館蔵資料(二村、長瀬両氏および県博職員の採集物)並びに、宮本木材工業寄贈ブナ材、木の葉化石園寄贈化石等を中心に構成した。ブナ林の意義を親しみやすく紹介し、私たちとブナ林とのかかわりを問い直す機会にさせていただくことを意図した。

<展示内容>

4コーナーに分け、館蔵の実物資料120点、パネル10枚、写真パネル10枚、レプリカ3点、ジオラマその他20点を展示した。

A. ブナ林とは……

導入として、ブナ林の主役であるブナそのものとブナ林の様子を紹介した。

(1)温帯の代表ブナ

ブナ材、世界のブナ属植物の分布図、アメリカブナの標本。

(2)日本のブナ

ブナ・イヌブナの化石、ブナ・イヌブナの比較標本、ブナ林での生物どうしのつながりを示すパネル、ブナ林のジオラマ。

B. 緑のダム

ブナ自然林の水源涵養機能の高さをブナ林の落葉・表土と、人工のスギ林の落葉・表土とを対比させながら問題提起した。

(1)人工林と自然林

白川村のブナ林と武儀郡のスギ林の写真、落葉・表土の比較、表土の乾燥の仕方。

(2)保水力の実験

ブナ林とスギ林の落葉と表土を使った比較実験用具類、落葉・表土各1kgの保水能力の比較実験グラフ等。

C. 恵みの森

ブナ帯と人々とのかかわりを食生活に主眼を置いて資料展示した。

(1)縄文文化とブナの森

縄文時代の人口と遺跡の分布図(複式炉)縄文式土器レプリカ、石器類。

(2)ブナ林の食べ物

イワナ、ヤマメ、アマゴ、木の実類、山菜食用きのこ。

(3)役に立つ植物

徳山村で使用されていたブナ製道具、薬草有用植物。

D. 残されたブナ林

ブナの主産地である岐阜県のブナ自然林と岐阜県のブナ林に見られる植物、きのこを紹介。

(1)岐阜県のブナ林

岐阜県のブナ自然林の分布図、ブナ自然林のある市町村、ブナ林の下草の写真、オオタチツボスミレレプリカ。

(2)ブナ林の植物

ブナ林の四季の写真、高木、亜高木、低木草本層の代表植物標本。きのこ写真と標本。

<関連事業>

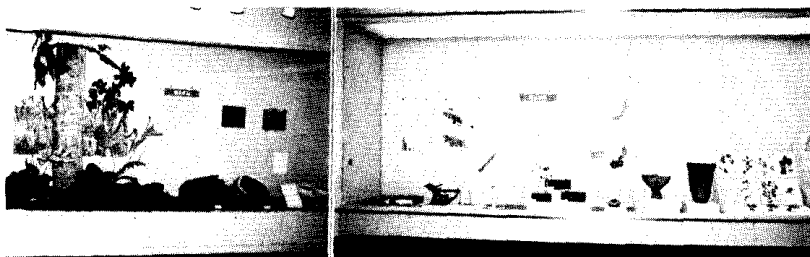
○県博日曜講座「ブナ林の植物」 2月18日(日)

○配布資料

パンフレット

「ブナ林」

(B5 12頁 900部)



〔その他の展示〕

三尾暁峰とその門下生の作品展

—— 東濃で活躍した画人たち ——

1月17日(水)～2月18日(日)

人文2展示室、書画のコーナー

三尾暁峰は幕末に活躍した付知(恵那郡付知町)の画人である。

寛政10年(1798)9月4日生

明治9年(1876)6月18日没 77歳

18才の頃京都に出て、佐伯岸駒(円山・四条派などを折衷した画風で岸派の祖となる)の門

に入り、画技を学んだ。その後付知に戻り多くの門人を育てた。三尾暁峰は虎の絵を得意とし、その他花鳥山水画にも秀でた技を残している。

当館では、昭和63年度に付知町教育委員会他関係町村教育委員会等の協力を得、三尾暁峰とその門下生の作品の一部を確認調査した。その結果付知町・東白川村・白川町一帯に、屏風絵・襖絵・軸装にされた絵等数多くの作品が保管されていることが認められた。今回の作品展では、三尾暁峰とその門下生の水墨淡彩画等次の資料を展示した。

番号	作者名	画題	形状	内法	所蔵者	備考
1	岸駒	絹本水墨淡彩 寿老人の図	掛軸	41×115	伊藤謙太郎	文政9年
2	"	" 虎の図	"	50×104	加地 官一	
3	"	紙本水墨 猛虎の図	"	48.5×124	早川 美生	
4	岸位峰	紙本水墨淡彩 花鳥の図	"	56×133	伊藤謙太郎	
5	"	" 岩頭虎の図	"	60×129	三尾沢次郎	78歳
6	"	" 龍虎の図	"	61×127	曾我 茂雄	文久4年 67歳
7	"	" 大國主尊の図	"	51×119	片田 元	明治元年 71歳
8	"	" 三十六仙人の図	"	61×138	"	
9	"	" 十六羅漢の図	"	99×162	伊藤謙太郎	
10	"	" 百老人の図	"	135×98	"	
11	"	" 二十四孝の図	"	143×186	加藤 時子	
12	"	" 百職人の図	"	61×137	三尾 尚夫	弘化4年 49歳
13	"	" 蜀の棧道の図	"	128×176	加地 官一	
14	"	絹本水墨淡彩 蜀の城郭の図	"	60×150	三尾 啓郎	
15	"	紙本水墨 昇龍の図	"	87×161	伊藤 幸雄	
16	秀蘭	紙本水墨淡彩 千羽鶴の図	"	60×133	三尾沢次郎	
17	"	" 七福神の図	"	58×46	"	大正3年 72歳
18	秀峰	絹本水墨淡彩 阿房宮の図	"	43×117	今井 晁平	
19	秀峰	紙本水墨淡彩 寒山の図	"	57×130	岸 国祐	
20	嶽南	絹本水墨淡彩 三国志の図	"	41×114	三尾 吉宗	
21	"	" 觀音像の図	"	43×124	"	
22	"	" 咸陽宮の図	"	57×125	"	
23	好静	紙本水墨淡彩 四季農耕の図	"	63×136	志津 典	(福岡町)
24	"	" 四季祭りの図	"	63×136	"	(")
25	森川蓬吉	" 暁峰肖像の図	"	47×84	三尾 尚夫	明治27年
26	東方	" 虎の図	"	61×136	安江 久吾	(白川町)
27	"	" 三国志	"	50×123	"	(")
28	秀蘭	" 夏の景	"	31×104	安江 一美	(東白川村)
29	"	" 四季農耕の図	"	62×131	古田甲子雄	(")
30	暁峰	" 雲龍の図(表)	襖	110×178	宗 敦 寺	襖4枚
31	"	" 花鳥の図(裏)	"	"	"	
32	"	紙本彩色 孔雀と鶴の図	屏風	60×6 169	田口 幸男	6曲1双
33	"	北斎漫画四編帖	"	"	三尾 尚夫	文化13丙子新刻(1816)
34	"	山水画帖	"	"	"	文政7甲申春2月(1824)
35	"	諸国名前日記覽	"	"	"	文政8西正月吉日(1825)
36	"	花画帖	"	"	"	天保10亥6月25日(1839)
37	"	山水縮図画帖	"	"	"	明治6丙夏日(1873)
38	"	竹法帖 四君子四	"	"	"	
39	"	魚鳥画帖	"	"	"	
40	"	鳥の画帖	"	"	"	
41	"	花鳥、人物画帖	"	"	"	
42	"	人物画帖	"	"	"	
43	"	印譜帖	"	"	"	
44	"	徳川幕府西丸用材伏出 出之小路絵巻巻物老巻	"	"	田口 慶昭	天保9戊戌 (1838)
45	"	田口忠左衛門様御願用古文書	"	"	"	天保9戊5月17日(1838)



〔調査研究・資料収集活動〕

—— 自然部門 ——

1. 調査研究

動物分野

(1)白山の調査研究及び資料収集

大倉山周辺、別山・石徹白ルートを中心に白山東斜面を調査し、そこで見られる動物の調査及び資料収集を行った。

〈収集した主な標本〉

ヤチネズミ、ヒメネズミ、アカネズミ、ヒミズ、ハクサンマイマイ、クモマベニヒカゲ、ベニヒカゲ、ヌタツカゾウムシ、ツノグロモンシテムシ、カノシマチビゲンゴロウ、ミヤマヒサゴコメツキ、ハクサンクロナガオサムシ、ハクサンヒメハナカミキリなど。

(2)県内鳥類調査

百年公園内におけるホウジロ・ウグイスの繁殖期のなわばり、中濃・東濃地方のカラスの埒など県内で見られる鳥類の生態調査を行い、鳥類のスライド50点を収蔵した。

(3)双六岳・乗鞍岳の昆虫の調査

双六岳、三俣蓮華岳、乗鞍岳など北アルプス南部の山々の高山帯に生息する昆虫類の調査、資料収集を行った。この調査は数年前から継続して行っているもので、今年度は甲虫類を中心とした調査を行った。

植物分野

(1)白山植物分布調査及び資料収集（5～11月）

ワリ谷、白水湖周辺、大白川～大倉山、白山展望道、白山南縦走線（油坂ノ頭～別山～三ノ峰～銚子ヶ峰～石徹白）の植生調査を行った。資料収集は写真資料を主とし、ハクサンイチゲ、ハクサンボウフウ、ハクサンタデ（オンタデ）、ハクサントイゲキ、ハクサンオオバコ等、白山の名を持つ植物12種の写真撮影をはじめ、白山地域の岐阜県側に生育する植物の生態写真を撮影した。高山植物については、ハクサンオオバコ、セリ科植物、スゲ属植物を採取した。また、菌類（きのこ）は、20種以上を採取した。白山南縦走線では3ヶ所で方形区調査を試みた。成果は、資料紹介展「ブナ林」に、また調査研究報告に「白山南縦走線の植物」として発表。

(2)菌類調査及び資料収集（5～11月）

加茂郡白川町内、関市内の菌類（きのこ）資料収集を行った。資料は目下同定作業中。次年度以降の調査研究報告で発表の予定。

(3)県内産植物資料収集。

5月、根尾東谷。7月、津保川河岸。9月、関市内。12月、百年公園内常緑樹70種。この他にも各地で若干の資料を収集した。

地学分野

(1)資料調査収集事業について

この事業は、昭和53年度以来、当博物館として県内の貴重な資料を得る大切な事業として、毎年度実施され多大な成果をあげてきた。

本年度も東京大学浜田隆土教授の指導のもと、収集補助員の協力を得て10月8・9・10日の3日間、郡上郡八幡町・揖斐郡根尾村両地内で実施し、動物化石等42点を収集した。

(2)白山の自然調査

特別展「白山の自然」を次年度にひかえ、本年度は、白山山系の地形・地質・化石の調査及び資料収集を多くの方々の協力のもと実施した。

白山山頂部の馬蹄形カルデラと中央火口丘の様子、黒ボコ岩、火山灰、オルソコーツァイトの分布、山麓の手取層群の分布とその化石など、成果は特別展に生かしたい。

(3)山県郡美山町舟伏山の化石調査

舟伏山山頂への新登山道がつくられたのを機会に、山頂部の化石調査を実施し、シカマイア、小型巻き貝、フズリナなどの資料収集を行った。

(4)瑞浪、岩村化石調査

瑞浪市内土岐川松ヶ瀬、恵那郡岩村町にて新生代の貝類化石の収集を行った。ここで得られた資料については、スタディ・コーナーにて展示する。

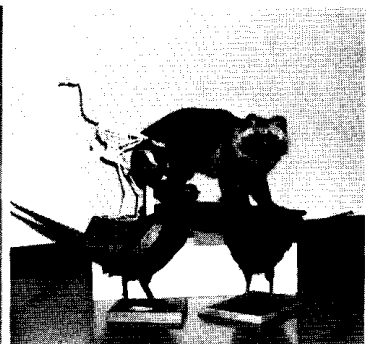


2. 資料数一覧

分野	館 蔵				借用	寄託	計
	実物	複製	移管・自作 その他	寄贈 (内数)			
動物	30,007	16	164	(16,609)	15	0	30,202
植物	10,700	41	190	(6,350)	0	0	10,931
岩石・鉱物	2,005	5	73	(516)	19	0	2,102
化石	1,945	31	20	(1,068)	47	28	2,071
その他	58	22	168	(16)	0	0	248
計	44,715	115	615	(24,559)	81	28	45,554

3. 資料寄贈者芳名一覧 (敬称略・順不同)

資料名	点数	芳名	資料名	点数	芳名	資料名	点数	芳名
ホンドイタチ	1	池戸 一郎	シジュウカラの巣外	2	池戸 鷹雄	アカゲラ	1	佐野 輝雄
ホンドイタチ	3	宮崎 惇	キセキレイの巣	1	烏居 甚吾	ニホンキジ	1	川瀬 善忠
ホンドイタチ外	3	今井 雅巳	オオヨシキリの巣	1	森田 澄夫	モズ	1	大塚 之稔
ホンドイタチ外	2	長野 浩文	ヒバリの卵	1	森 忠司	アオジ	1	平野由郁理
アライグマ	1	可見市農政課	コケラ外	3	馬場 仁美	アオゲラ	1	松葉 正之
アライグマ	1	三品 登	ヤマドリ	1	大澤 信孝	ノゴマ	1	庄村 延子
アライグマ	1	藤田 道明	ジョウビタキ外	2	福田 英男	トラツグミ	1	栗山 昌泰
ホンドタヌキ	1	七宗町教育委員会	オオルリ	1	辻 栄介	アユカケ	1	田島 一美
ホンドタヌキ	1	小山内 勤	カケス	1	小林すみゑ	ドンコ外	6	吉田 文男
ホンドタヌキ	1	梅村 好造	キビタキ	1	吉川 錦聖	クロイワマイマイ外	8	船越進太郎
ホンドタヌキ外	4	田口 幹夫	フクロウ	1	杉山 政広	サンゴ類	14	河村 恒雄
ホンドタヌキ	1	井上八千代	フクロウの剥製外	5	野々村英男	コウベモグラ	1	岩田 英樹
ホンドギツネ	1	伊藤 茂雄	シロハラミズナギドリ	1	池戸 進	アミメカゲロウ	2	宮崎 惇
ハクビシン	1	中村 正治	コジュケイ	1	武藤 京一	ブナ板材	8	宮本 慶治
ヌートリア	1	安田 義広	キセキレイ	1	前田喜四雄	帰化植物標本	73	広田 艶子
ヌートリア	1	亀山 金之	セグロセキレイ	1	武藤 善隆	植物標本	200	県岐商生物クラブ
テン	1	四ツ橋利数	ウグイス	1	中島 紘一	菌類標本外	13	宮崎 惇
モモンガ	1	後藤 恭平	ホオジロ	1	中島 紀六	県内植物標本	642	二村 延夫
ジネズミ	1	福井 強志	アオバズク	2	門井 慶市	県内植物標本	955	長瀬 秀雄
ウシの頭骨外	3	岐阜市食肉センター	カワラヒワ	1	亀山 力造	サンゴ化石	16	河村 恒雄
ムクドリ外	2	後藤 常明						
シロハラ外	3	須田 正治						
ヒヨドリ外	10	吉川 錦聖						
スズメ	1	大沢 和人						
スズメ外	5	千藤 克彦						
キジバト外	2	森 国松						
タマシギ(ひな)	2	馬場ちづ子						
エナガの巣	1	松井 清高						
トリの巣	1	松田 茂						
キセキレイの巣外	2	木沢 民人						



—人文部門—

1. 調査研究

考古分野

- (1)「東寺山古墳出土鏡片について」の調査研究。
調査研究報告として発表。
- (2)平成元年度特別展「濃飛の古墳時代」の関連事業「シンポジウム美濃の前期古墳」の内容を1冊の書にまとめ出版。(教育出版)

歴史分野

- 平成二年度の特別展「輪中と治水」に向けての調査研究。

美術・工芸分野

- (1)平成元年度資料紹介展「硯」に向けての調査研究。硯展手引書として発表。
- (2)常設展充実に向けて調査してきた成果を「三尾暁峰とその門下生の作品展—東濃で活躍した画人たち」として人文2展示室の書画コーナーに展示発表し、手引書としても発表。

民俗分野

- 県下年中行事の調査研究と資料収集の実施。
平成元年度特別展「移ろいゆく年中行事」として発表。

2. 資料数一覧

分野	館 蔵				借 用	寄 託	計
	実 物	複 製	その他	(寄贈)			
考 古	1,993	166	52	1,797	601	186	2,998
歴 史	1,064	31	122	1,051	22	146	1,385
民 俗	1,991	2	9	1,991	213	19	2,234
美術・工芸	225	17	37	171	274	1,250	1,803
その他	0	0	0	0	0	1	1
計	5,273	216	220	5,010	1,110	1,602	8,421

複製には模型・ジオラマを含む(平成2年3月31日現在)

3. 資料寄贈者芳名一覧(敬称略・順不同)

資 料 名	点数	芳 名	資 料 名	点数	芳 名
開運干支(巳)	2	宮崎 惇	備中鍬の刃	1	笠井紀元
土 鈴	1	〃	疱瘡除鍾馗絵	1	三口清次郎
藁 打 機	1	〃	追 儼 面	1	梶原 拓
岐阜新聞 号外	1	鷺見 峰 男	岐阜新聞 号外	3	角 竹 弘
岐阜新聞 号外	1	〃	岐阜新聞保存版	3	〃
亜炭試掘用ボーリング 手つきノミ	1	西尾 守 保	養蚕用セベ	3	森 信 竹
足踏式脱穀機	1	笠井紀元	養蚕用タボ	1	森 哲
石 臼 と 杵	各1	〃	刀 劍	84	市 田 靖

〔教育普及活動〕

1. 概略

近年、「生涯学習」が全国的に話題になっているが、本館も多くの学習機会を設け、タイムリーな学習情報を提供するように努めている。

学習機会の1つとしては、日曜日を中心に行われる教育普及活動があげられる（P12参照）が、かなり多くの参加者を集め充実した学習活動が行われた。

学習情報の提供としての広報活動は、例年の活動の他、電光ニュース・県事務所等の庁内放送・新聞への記事記載・学校関係の会議への働きかけなどを行ったが、十分な実効を上げるまでにはいたっていない。今後も教育普及係だけでなく館員全員が、機会を見つけ、広報に努める必要があろう。

2. 移動展

「ふるさとの植物と動物たち」というテーマで、郡上郡白鳥町・八幡町で実施した。展示資料は昨年度と同じく動物・植物・昆虫・魚である。

○白鳥町社会福祉センター（白鳥町）

- ・期間 7/21～7/30（10日間）
- ・入場者数 1,156人

○郡上郡総合文化センター（八幡町）

- ・期間 8/2～8/11（うち9日間）
- ・入場者数 1,900人
- ・ふるさと教室 8/3 八幡町で実施している「少年ふるさと教室」の一環として実施。

両会場で書いてもらった感想には、間近で動物・植物のはく製・標本を見た子供達の驚き・強い関心がうかがわれた。また、大人も改めて興味をそそられたようである。より効果的な展示に対する要望もあったので、今後に生かしたい。



3. 資料貸し出し

他館での展示会、研究会、学校での教材等に貸し出した主な資料。

〈人文〉

○大垣市歴史民俗資料館（7.21～8.21）

- ・十六銅鐸 1口

○岐阜市歴史博物館（2.2.23～4.15）

- ・円満寺山古墳出土鏡（3面）

〈自然〉

○神戸町中央公民館（4.11～5.11）

- ・ホンドキツネ、二ホンアナグマ、ホンドイタチなど人里の動物の標本 33点
- ・写真パネル、動物写真 19点

○岐阜県美術館（2.1.26～2.5）

- ・スズメ、ウグイスなど鳥標本 6点

○一宮市博物館（2.2.10～4.10）

- ・ホンドキツネ、ホンドタヌキなど哺乳類標本 6点
- ・アユ、ウナギ、コイ、モクズガニなど魚類、甲殻類標本 26点

○岐阜市科学館（2.2.19～4.9）

- ・オシドリ、マガモ、コガモなど鳥類標本 11点
- ・解説パネル 6点

○川島町ふるさと史料館（2.2.24～4.20）

- ・ホンドキツネ、ヤマネ、イモリ、シマヘビ、ダンゴムシなど動物標本 45点
- ・解説パネル、写真など10点

4. 博物館実習生指導

信州大学の学生2名、帝塚山大学の学生1名の計3名を指導した。

5. 図書資料室

図書資料室では約18,200冊の本を開架式で一般来館者の利用に供している。購入による資料収集の外、他館との資料交換、寄贈等により近年その図書は充実してきている。岐阜県博物館友の会からは、今年度『日本の絵巻物』（全20巻）と『読売年鑑1990』の寄贈を受けた。

6. 刊行物

今年度は定期刊行物の外、従来の「展示案内」の内容を一新して「展示案内ここをじっくり」を、また、財団法人日本生命財団の助成を受け

て「岐阜県博物館総合案内」を刊行できた。その外、1987年度の特別展の図録「飛驒の匠」の

再版・三版を刊行することができた。

平成元年度 刊行物一覧

名 称	発行年月日	版・頁	部 数	備 考
岐阜県博物館だより 第38号	元.4.1	B 5 4頁	2,500	
〃 第39号	元.7.1	〃 〃	2,500	
〃 第40号	元.10.1	〃 〃	2,500	
岐阜県博物館報 第12号	元.4.1	B 5 32頁	500	(友の会増刷)
岐阜県博物館調査研究報告 第11号	2.3.31	B 5 56頁	700	
平成元年岐阜県博物館催しもの案内	元.4.1	B 4 表裏	25,000	
	元.4.1	B 3 表	10,000	
展示案内 ここをじっくり	元.4.1	B 5 64頁	2,000	(1,000)
岐阜県博物館 総合案内	元.10.30	B 5 88頁	4,000	
岐阜県博物館概要書(改訂版)	元.4.1	B 5 26頁	1,850	
特別展図録・パンフレット				(友の会増刷)
濃飛の古墳時代(図録)	元.4.26	B 5 66頁	500	(1,000)
ふるさとの野鳥(パンフレット)	元.7.12	B 5 10頁	12,000	
移ろいゆく年中行事(図録)	元.10.4	B 5 32頁	600	(700)
飛驒の匠(再版)	元.10.20	B 5 51頁	(2,150)	(友の会発行)
飛驒の匠(三版)	2.3.	B 5 69頁	(3,500)	(〃)
特別展ポスター・ちらし				
濃飛の古墳時代(ポスター)	元.4.1	B 2	1,000	
〃 (〃)	元.4.1	B 3	1,300	
〃 (ちらし)	元.4.1	B 5	(12,000)	(友の会発行)
ふるさとの野鳥(ポスター)	元.6.12	B 2	2,500	
〃 (ちらし)	元.6.12	B 5	(12,000)	(友の会発行)
移ろいゆく年中行事(ポスター)	元.9.4	B 2	1,500	
〃 (ちらし)	元.9.4	B 5	(12,000)	(友の会発行)
資料紹介展パンフレット				
硯(パンフレット)	元.12.13	B 5 9頁		
フナ林(パンフレット)	元.2.11	B 5 12頁		

7. 視聴覚資料

今年度も郷土学習室ビデオスタディコーナーでビデオを上映した。また、団体来館者などに講堂・研修室で16mmフィルム・スライドなどを上映した。16mmフィルム・ビデオテープの貸し出しなども行った。

春の特別展開催時には、展示された作品が撮影され「美をもとめて」というテレビ番組(文化庁提供)に「古墳副葬品の美—美濃の古墳文化」として放映された(ビデオ資料化)。また、16mmフィルム「新しき日本 岐阜県篇」(昭和28年製作)外5点程の映像資料を寄贈された。

購入した映像資料としてはビデオ科学館「昆虫たちの驚異」(7巻)がある。

8. 来館者アンケート及びクイズ

春の特別展開催中に来館者へのアンケートを行い、来館者の地域的動向・来館のきっかけ・施設設備に対する意見など貴重な示唆を得た。(パンフレット作成)

また、特別展には内容に沿ったクイズをつくり、理解に供した。

9. コンパニオン研修

従来行われてきたコンパニオン研修を月2回の定期的なものとし、22回実施した。

〔図書資料寄贈者芳名一覽〕

(平成元年4月1日～

平成2年3月31日)

〔博物館関係〕

国立民族学博物館
国立歴史民俗博物館
国立科学博物館、附属自然植物園
国立国際美術館
東京国立博物館
東京国立近代美術館
京都国立博物館
憲政記念館
岐阜県美術館
岐阜県歴史資料館
岐阜県立図書館
岐阜市科学館
岐阜市歴史博物館
各務原市歴史民俗資料館
内藤くすり記念博物館
川島町ふるさと史料館
岐南町歴史民俗資料館
羽島市歴史民俗資料館
大垣市郷土館
大垣市歴史民俗資料館
可児市郷土歴史館
岐阜県陶磁資料館
瑞浪陶磁資料館
美濃陶磁歴史館
瑞浪市化石博物館
飛騨・北アルプス自然文化センター
アイヌ民俗博物館
鉦路市立博物館
旭川美術館
札幌芸術の森
滝川市美術自然史館
苫小牧市博物館
根室市博物館開設準備室
ひがし大雪博物館
北海道開拓記念館
北海道開拓の村
斜里町立知床博物館
穂別町立博物館
青森県立郷土館
八戸市博物館
岩手県立農業博物館
岩手県立博物館
仙台市博物館
仙台市歴史民俗資料館
東北陶磁文化館
東北歴史資料館
鹽竈神社博物館
秋田県立博物館
秋田大学鉱山学部附属鉱業博物館
山形県立博物館
致道博物館
福島県立博物館
茨城県歴史館
土浦市立博物館
栃木県立博物館
栃木県立しもつけ風土記の丘資料館

小山市立博物館
群馬県立近代美術館
群馬県立歴史博物館
浦和市郷土博物館
埼玉県さきたま資料館
埼玉県立自然史博物館
埼玉県立博物館
埼玉県立民俗文化センター
埼玉県立歴史資料館
戸田市立郷土博物館
土田市立郷土博物館
市立市川考古博物館
市川自然博物館
館山市立博物館
千葉県立郷土博物館
千葉県立中央博物館
千葉県立安房博物館
千葉県立大根博物館
千葉県立上総博物館
千葉県立総南博物館
千葉県立房総のむら
千葉県立房総風土記の丘
千葉市加曽利貝塚博物館
船橋市郷土資料館
足立区立郷土博物館
大田区立郷土博物館
家具の博物館
紙の博物館
都立美術館
サントリー美術館
品川区立品川歴史館
渋谷区立松濤美術館
たばこと塩の博物館
東京都高尾自然科学館
八王子市立郷土資料館
府中市郷土の森
福生市郷土資料館
町田市立博物館
郵政省通信博物館
国学院大学文学部考古学資料室
湯浅八郎記念館
明治大学商品陳列館
神奈川県立博物館
神奈川県立自然保護センター
神奈川県立金沢文庫
川崎市青年科学館
茅ヶ崎市文化資料館
根岸競馬記念公苑馬の博物館
平塚博物館
横須賀市自然博物館・人文博物館
長岡市立科学博物館
新潟県美術博物館
柏崎市立博物館
富山市立博物館
富山市科学文化センター
石川県白山自然保護センター
石川県立美術館
石川県立歴史博物館
小松市立博物館
松任市立博物館

福井県立博物館
福井県立若狭歴史民俗資料館
福井市立自然科学博物館
福井市立歴史博物館
山梨県立美術館
飯田市立博物館
上田市立博物館
大町山岳博物館
信濃町立野尻湖博物館
長野市立博物館
松本市立博物館
上原仏教美術館
静岡県立美術館
静岡市立登呂博物館
東海大学海洋科学博物館
東海大学自然史博物館
沼津市明治資料館
沼津市歴史民俗資料館
浜松市博物館
富士市立博物館
愛知県陶磁資料館
清州貝殻山貝塚資料館
愛知県文化会館
熱田神宮宝物館
一宮市博物館
瀬戸市歴史民俗資料館
豊橋市自然史博物館
豊橋市地下資源館
豊橋市美術博物館
豊田市美術博物館
豊田市郷土資料館
日本モンキーセンター
名古屋市博物館
名古屋市科学館
名古屋市見晴考古資料館
名古屋大学総合研究所
愛知大学総合郷土研究所
半田市立博物館
博物館明治村
尾西市歴史民俗資料館
三好町立歴史民俗資料館
リトルワールド
海の博物館
桑名市博物館
神宮徴古館
真珠博物館
藤原岳自然科学館
斎宮歴史博物館
宇治市歴史資料館
滋賀県立近江風土記の丘資料館
滋賀県立琵琶湖文化館
市立長浜城歴史館
彦根城博物館
京都市考古資料館
京都府立総合資料館
京都市丹後郷土資料館
大阪市立博物館
大阪市立自然史博物館
大阪市立電気科学館
大阪人権資料館

堺市博物館
伊丹市立博物館
神戸市立博物館
兵庫県立歴史博物館
西宮市立郷土資料館
大理大学附属天理参考館
奈良県立美術館
奈良県立民俗博物館
大和文華館
和歌山県立自然博物館
和歌山市立博物館
鳥取県立博物館
岡山県立博物館
岡山県立美術館
岡山市立オリエント美術館
倉敷市立自然史博物館
津山郷土博物館
津山洋学資料館
備前長船博物館
新市町立歴史民俗資料館
日本はきもの博物館
広島県立歴史博物館
広島市安佐動物公園
秋吉台科学博物館
山口県立博物館
徳島県博物館
愛媛県立博物館
瀬戸内海歴史民俗資料館
北九州市立歴史博物館
北九州市立考古博物館
北九州市立自然史博物館
北九州市児童文化科学館
鞍手町歴史民俗資料館
福岡市博物館
熊本県立博物館
熊本市立熊本博物館
山鹿市立博物館
佐賀県立博物館
長崎県立美術博物館
大分県立宇佐風土記の丘歴史民俗資料館
別府大学附属博物館
宮崎県総合博物館
鹿児島県立博物館
鹿児島県歴史資料センター黎明館
鹿児島市立美術館

〔博物館協会〕

日本博物館協会
全日本博物館学会
全国科学博物館協議会

〔役所関係〕

内閣技術院
農林水産省東海農政局・名古屋営林局
神奈川県
名古屋市
関市役所
可見市役所
土岐市役所

中津川市役所
高山市役所
笠松町役場
北方町役場
川島町役場
高富町役場
平田町役場
春日村役場
岩村町役場
萩原町役場
下呂町役場
古川町役場
荘川村役場
岐阜市民会館
岐阜市文化センター
大垣市文化会館
美濃加茂市文化会館
多治見市文化会館
川島町民会館

〔教育委員会関係〕

岐阜県教育委員会
岐阜県教育センター
岐阜県情報処理センター
岐阜県同和教育協議会
岐阜県教育委員会文化課
岐阜県小中学校校長会
岐阜県PTA連合会
岐阜市教育委員会
大垣市教育委員会
関市教育委員会
美濃市教育委員会
美濃加茂市教育委員会
可見市教育委員会
多治見市教育委員会
土岐市教育委員会
恵那市教育委員会
高山市教育委員会
北方町教育委員会
真正町教育委員会
池田町教育委員会
春日村教育委員会
久瀬村教育委員会
谷汲村教育委員会
武儀町教育委員会
洞戸村教育委員会
大和町教育委員会
和良村教育委員会
東白川村教育委員会
川辺町教育委員会
岩村町教育委員会
付知町教育委員会
上矢作町教育委員会
萩原町教育委員会
古川町教育委員会
北海道教育委員会
千歳市教育委員会
秋田県教育委員会
神奈川県教育委員会
相模原市教育委員会

世田谷区教育委員会
杉並区教育委員会
板橋区教育委員会
福生市教育委員会
白峰村教育委員会
岡崎市教育委員会
刈谷市教育委員会
春日井市教育委員会
豊田市教育委員会
一宮市教育委員会
三好町教育委員会
師勝町教育委員会
一色町教育委員会
松本市教育委員会
亀山市教育委員会
滋賀県教育委員会
西紀・丹南町教育委員会
豊中市教育委員会
貝塚市教育委員会
泉佐野市教育委員会
藤原町教育委員会
倉吉市教育委員会
広島市教育委員会
佐賀県教育委員会
多良見町教育委員会

〔学校関係〕

岐山高等学校
岐阜第一女子高等学校
羽島高等学校
岐阜東高等学校
揖斐高等学校
不破高等学校
加茂高等学校
郡上北高等学校
可児工業高等学校
関商工高等学校
岐阜県高等学校国語研究会・岐阜地区研究会
岐阜県高等学校国語研究会・飛騨地区研究会
岐阜県高等学校理科助手研究会
岐阜大学教育学部
岐阜薬科大学図書館
岐阜女子短期大学
岐阜経済大学図書館
東海女子大学
聖徳学園短期大学
中部女子短期大学
図書館情報大学
お茶の水女子大学学芸員課程
学習院大学
東京大学地震研究所
武蔵野美術大学
多摩美術大学
東洋大学教養課程
神奈川大学日本常民文化研究所
早稲田大学図書館
立教大学学芸員課程
明治薬科大学

日本大学文学部応用地学教室
明治大学学芸員課程
法政大学
静岡大学理学部地球科学教室
愛知大学図書館
中京短期大学
市邨学園短期大学人文科学研究室
名古屋大学文学部美術史研究室
京都大学考古学研究室
同志社大学博物館学芸員課程
立命館大学
仏教大学図書館
関西大学考古学等資料室
大阪大学文学部国史研究室
大谷女子大学資料館
鳥根大学図書館
山口大学人文学部考古学研究室
九州大学理学部地質学教室

〔研究機関、出版社、その他〕
東京国立文化財研究所
奈良国立文化財研究所一飛鳥資料館
農林水産省農林水産技術会議事務局
郵政省郵便研究所付属資料館
宮内庁書陵部
国立教育会館社会教育研究所
文化庁
極楽寺宗教文化研究所
北網圏北見文化センター
秋田県埋蔵文化財センター
東京埋蔵文化財センター
板橋区徳丸森木遺跡調査会
板橋区四葉地区遺跡発掘調査会
府中病院内遺跡調査会
町田木曾森野地区遺跡調査会
朝霞市泉水山下ノ原遺跡調査会
東北新幹線赤羽地区遺跡調査会
玉川文化財研究所
千葉文化財センター
神奈川県埋蔵文化財センター
静岡県埋蔵文化財調査研究所
帝塚山考古学研究所
広島県草戸千軒町遺跡調査研究所
東レ科学振興財団
行動と文化研究会
民具製作技術保存会
霞会館
平岡環境科学研究所
活断層研究会
東京貝塚同好会
日本イヌワシ研究会
三重動物学会
観光資料保護財団
名古屋植物防疫所
愛知の産業遺跡遺物調査保存研究会
黒川古文化研究所
国画会
多摩市文化振興財団
日展
日本美術刀剣保存会

ポーラ伝統文化振興財団
岐阜県広報課
岐阜県青少年婦人課
岐阜県統計課
岐阜県地域振興課
岐阜県自然保護課
岐阜県選挙管理委員会事務局
岐阜県公害研究所
岐阜県工業技術センター
岐阜県工業試験場
岐阜県水産試験場
岐阜県農業総合技術センター
岐阜県御獄少年自然の家
岐阜県伊自良青少年の家
岐阜県関ヶ原青少年自然の家
各務原市少年自然の家
ぎふ中部未来博覧会協会
岐阜県郷土資料研究会
岐阜県昆虫同好会
岐阜県植物研究会
岐阜県デザイン振興会
岐阜県歴史資料保存会
国民融合をめざす部落問題全国会議
岐阜民主同和促進協議会
美濃加茂市社会教育視覚協議会
笠松町商工会
日本野鳥の会岐阜県支部
アライグマ動態調査団
岐阜県文化財保護協会
養老町文化財保護協会
掛斐谷の自然と歴史と文化を語る集い
淡水魚保護協会
郡上史談会
南長森郷土史会
地域社会研究会
東氏文化顕彰会
美濃民俗文化の会
飛騨自然史学会
飛騨郷土学会
飛騨高山博 高山市イベント実行委員会
書道心画院
霊山顕彰会
然齋研究会
日本生命財団
日本の竹を守る会岐阜支部
能平製作所
岐阜トヨタ
三菱広報委員会
日本地理研究会
政治・経済情報センター
三井文庫
農村文化研究所
美術倶楽部
国際交流基金
世界デザイン博覧会
岐阜新聞社・岐阜放送
中日新聞社
朝日新聞社
サンケイ新聞

NHKサービスセンター
名古屋テレビ放送
月刊西美濃わが街社
北白川書房
TAPタウン情報ぎふ
講談社
東京書籍
岩波書店
啓林館
丸善
第一学習社
創造
令文社
山川出版社
二宮書店
浜島書店
東京法令出版
一橋出版
東京美術
文一総合出版
芸術出版社
日本美術刀剣新聞社
ほっちぼっち出版部
びあ株式会社
海外学人日刊社
今日郵政月刊社
中華民国僑務委員会

〔個人〕

天野 蘇鉄
石田 鎌一
伊藤 淳彦
今泉 孝則・加藤 繁富
上原 昭一
小野木 三郎
大野 政雄
老田 剛
大地昂 太郎
奥村 正臣
各務 義章
加藤 芳明
角竹 弘
岸 昭道
窪田 一郎
佐野 弘好
杉村 啓治
鷺見 信明
千藤 克彦
高橋伊佐夫
田辺 すゝ
田口 慶昭
田中 俊弘
田代 憲次
蜂屋喜一郎
長谷川匡一
船越進太郎
宮崎 惇
村瀬 正成
森 芳郎
森田 誠司

〔利用状況〕

1. 入館者数

今年度は、入館者総数55,891人、前年に比べ約7%の減少で、世界デザイン博覧会の影響が大きかった。

また、開館日数は305日であり、1日平均の入館者数は183人であった。

月別の入館者数は右表のとおりである。1日の入館者が最も多い日は5月4日で1,476人を数えた。

団体入館者をみると、226団体16,786人で入館者総数の約30%にのぼり、月別では5月が最も多く、団体入館者総数の約14%を占めている。

これを県内、県外別にみると、県内が170団体11,556人で全体の約69%を占め、県外では愛知県が圧倒的に多く、44団体4,860人で全体の約28%を占めている。

月	小中生	高大生	一般	計	開館日数	1日平均
4	人 2,329	人 529	人 2,729	人 5,587	日 26	人 215
5	3,710	389	5,150	9,249	26	356
6	2,141	577	3,280	5,998	26	231
7	641	217	1,820	2,678	26	103
8	1,312	371	2,443	4,126	27	153
9	1,003	352	2,289	3,644	26	140
10	4,545	978	3,183	8,706	26	335
11	3,278	457	2,559	6,294	26	242
12	195	66	1,055	1,316	22	60
1	353	51	1,515	1,916	23	83
2	424	49	1,609	2,082	24	87
3	1,247	229	2,816	4,292	27	159
計	21,178	4,265	30,448	55,891	305	183

特別展期間中の中の入館者数は右表のとおりであり、入館者総数38,620人、1日252人であった。これは入館者総数の約69%にあたり、特別展への関心の高さがうかがえる。

特別展名	期間	小中生 (人)	高大生 (人)	一般 (人)	計 (人)
濃飛の古墳時代	4.26～6.18	6,142	956	8,826	15,924
ふるさと野鳥	7.12～9.17	2,469	894	5,188	8,551
移ろいゆく年中行事	10.4～11.26	7,499	1,416	5,230	14,145
合計		16,110	3,266	19,244	38,620

2. 施設利用者

今年度の講堂及び研修室の利用者は次のとおりであった。

- | | |
|--|---------------------------|
| 5.13 岐阜県文化財保護協会可児支部 | 8.11 安八町教育委員会 |
| 5.14 J M H C 岐阜本部総会 | 「夏休み少年自然教室」 |
| 5.19 岐阜県高等学校教育研究会社会科部会 | 8.18 岐阜県中学校理科研究部会 |
| 5.23 愛知県西春日井郡師勝町教育委員会 | 8.22 中濃地区事務職員研修会 |
| 5.27 日本美術刀剣保存協会岐阜支部 | 8.29 岐阜県小・中学校教育研究会理科部会 |
| 6.13 関市小中高校長連絡会 | 9.5 岐阜県高等学校長協会 |
| 6.15 豊田市文化財審議委員会 | 9.18 東濃教育事務所指導主事研修会 |
| 6.18 愛知県小牧市母子寡婦福祉協議会 | 9.21 美濃市小学校理科研究部会 |
| 7.21 岐阜教育事務所社会教育主事会 | 10.5 美濃教育事務所（小中学校新採教員研修会） |
| 7.28 関市教育委員会「少年少女科学教室」 | 10.17 中濃地区公衆衛生協議会 |
| 29 " " | 10.21 日本美術刀剣保存協会岐阜支部 |
| 8.2 岐阜市中学校理科研究会 | 11.10 神奈川県博物館協会 |
| 8.6 岐阜県哺乳動物研究会 | 11.12 岐阜野尻湖友の会 |
| | 3.11 岐阜野尻湖友の会 |

〔博物館関係団体〕

1. 岐阜県博物館協会

岐阜県博物館協会は「会員相互の連絡提携のもとに、社会教育の健全な推進と文化の向上に寄与すること」を目的に、昭和41年に設立された。公開講座（年4回）、機関紙（季刊）、会員研修会（年3回）等の諸活動をくり広げ、設立の目的に沿うよう努力した。

平成2年3月現在、会員館園は98、個人会員22名、会長以下主な役員は次のとおり。

会長－藤田浩（岐阜市長）、副会長－平田吉郎・青木允夫・伊藤秀幸、理事長－松本五三、協会事務局は岐阜県博物館内にある。

2. 岐阜県博物館友の会

「博物館事業の普及を図るとともに、会員相互の教養を高め、親睦を図ること」をめざして発足した友の会は7年目の活動に入った。平成元年度は会員数も着実に増え、ようやく基盤が整ったといえよう。

まず会員数は406名、初めて400名の大台に達した。前年度より62名の大幅増加で、500名を超えるのも夢ではない。年齢構成は50・60歳代が半数を占め、実年世代の強い学習意欲がうかがえる。生涯学習の一端としての友の会の使命を改めて感じさせる。

主催事業のうち、研修の旅は日帰り3日、1泊2日1回の計4回、他館見学1回を実施したが、今後もこのペースを崩さずに計画をたて、仲間とともに学ぶ楽しさを十分体験できる内容にしていきたい。

研修の旅コースの中に、県博物館の特別展見学を組み入れるなどの工夫を試みたが、さらに検討を加え、実のあるものにしたい。

財政基盤の整備充実のため、62年度に導入した後援会員制度は、各方面の理解を賜り、まずまずの成果をあげることができた。資料等の作成頒布では、過去に刊行した特別展図録のうち初めて「飛驒の匠」の再版が実現し、事業の拡充に大きな力となった。

今後の課題としては、会員増加に伴って、研修の旅などの内容の改革、さらに会員による自主的な運営の推進方法等、財政基盤のいっそう

▼天狗党遺跡（教養）で説明を聴く会員



の充実とともに、検討の必要があろう。

◎平成元年度友の会の事業

〈会 議〉

総会4.23 役員会4.15 6.10

後援会員懇談会3.17

〈研修の旅、他館見学〉

- ・歴史探訪（落合宿ほか） 5.14 40名参加
- ・同（桑原家住宅ほか） 7.16 43名参加
- ・同（越前の史跡） 10.22～23 73名参加
- ・美術探訪（鳴海絞りほか） 3.11 45名参加
- ・県美術館見学 8.12 17名参加

〈友の会報発行〉

- ・第19号 4.1 500部 A 5 6頁
- ・第20号 7.1 500部 A 5 6頁
- ・第21号 10.1 500部 A 5 6頁
- ・第22号 1.1 500部 A 5 6頁

〈資料等の作成頒布〉

- ・特別展図録「濃飛の古墳時代」 1,000部
- 「移ろいゆく年中行事」 700部
- 「飛驒の匠」再版 2,150部
- 「飛驒の匠」三版 3,500部
- ・「展示案内ここをじっくり」 1,000部
- ・「岐阜県の博物館」ほか委託図書等

〈その他〉

- ・親子教室等共催事業 13回
- ・会員助成（入館料補助）
- ・県博物館へ図書寄贈

◎平成元年度友の会役員

会 長 熊田光久

副会長 長屋一男 国光溢夫 廣田照夫

伊藤秀幸

◎平成元年度予算

一般会計1,172,275円 特別会計1,774,546円

IV 利用案内

- ・開館時間 4月1日▶10月31日 9時▶16時30分
 11月1日▶3月31日 9時30分▶16時30分
 (入館は16時まで)

- ・入館料 ()内は特別展開催中の入館料

区分	個人	団体(20人以上)
一般	200円(400円)	150円(300円)
高校・大学生	100円(200円)	50円(100円)
小・中学生	50円(100円)	30円(60円)

※団体で利用していただく場合には、下見においでください。
 解説資料・利用案内等をさしあげ、館内をご案内します。

- ・休館日 月曜日(月曜日が祝日にあたる時は翌日)
 年末年始(12月27日▶翌年1月4日)
- ・駐車場 博物館には駐車場がありませんので、百年公園の駐車場をご利用ください。
 駐車料金……普通(軽)自動車 300円、バス 800円
- ・交通 名鉄美濃町線 小屋名下車 徒歩約15分
 岐阜バス 小屋名下車 徒歩約15分
 自家用車ご利用の場合は百年公園北口からお入りください。

